徳島県立博物館年報

第1号（平成2・3年度）

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum
No. 1 (for the fiscal years of 1990－1991)

年報の発刊にあたって

徳島県立博物館は、21世紀の徳島の誇り高い文化を創造するための中心的な役割を果たすことをめざし、文化の森総合公園文化施設の一つとして、平成２年11月３日に開館しました。開館以来まだ１年半ではありますが、すでに、25万人をこえる入館者を迎え、多くの皆様から御好評をいただいております。また、各種普及行事には、2,000人ちかい参加者がありましたし、全国からもたくさんの視察・見学者を迎えております。このように、ひとまず順調なスタートができましたことは、皆様の御支援、御協力によるものと深く感謝しております。

この間、私どもは企画展の開催をはじめ、課題調査の実施、研究報告の発行、収蔵資料の充実、各種普及行事の開催、友の会の発足等々に努力を重ねてきました。しかし、どちらかというと、この１年半は、博物館の諸活動をとにかくスタートさせ、定着させるための努力の期間であったように思われます。

当館は、１：郷土に根ざし世界に広がる博物館、２：開かれた博物館、３：研究を大切にする博物館、４：文化財を守り自然の保全をめざす博物館、を目標にかかげておりますが、これらの基本理念を具現するためにも、これからは、一つ一つの活動の質的なレベルアップを図るとともに、非常な速さで変化していく社会のニーズや人々の知的欲求を的確にとらえて、博物館自身も自己変革をとげていく必要があることは申すまでもありません。

この度、平成２・３年度の博物館活動の記録を徳島県立博物館年報第１号として発刊することとなりました。今後も、当館の足跡を詳しく記録にとどめ、発展の糧とするための出版物として、継続的に発行して行きたいと考えております。

今後とも皆様の一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

平成４年６月10日

徳島県立博物館長　**亀　井　節　夫**

目　　次

Ⅰ 開設準備

1．文化の森建設事業所管の推移 …… 3
2．博物館基本構想検討委員会 …… 3
3．博物館開設準備 …… 4
4．文化の森総合公園開園記念式典 …… 10

Ⅱ 展覧事業

1．常設展 …… 11
2．企画展 …… 12
3．文化の森紹介展 …… 13
4．展示関係出版物 …… 14

Ⅲ 調査研究事業

1．分野別（個別）調査研究 …… 15
2．課題調査 …… 17
3．「同和問題啓発企画展(仮称)準備検討会」18
4．文部省科学研究費補助金による研究 …… 18
5．研究成果の公表 …… 18
6．研究会・学会等の開催 …… 21
7．研究機器類 …… 21

Ⅳ 資料収集保存事業

1．購入資料 …… 22
2．寄贈資料 …… 23
3．寄託資料 …… 25
4．資料の貸出 …… 26
5．館蔵資料数 …… 26
6．博物館資料収集委員会 …… 26
7．文献資料の収集 …… 26
8．資料データベース …… 27
9．資料の燻蒸 …… 27

Ⅴ 普及教育事業

1．平成２年度普及行事 …… 29
2．平成３年度普及行事 …… 29
3．講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等 … 31
4．普及教育関係出版物 …… 31
5．博物館の広報活動 …… 32
6．博物館実習生の受け入れ …… 32
7．博物館友の会 …… 32

Ⅵ 国際交流事業

1．ラプラタ大学との相互贈与 …… 33
2．ロイアル・オンタリオ博物館との資料交換 …… 33
3．国際交流基金招聘者の受け入れ …… 33

Ⅶ 管理運営

1．組織・職員 …… 34
2．予算 …… 35
3．博物館協議会 …… 36
4．視察等博物館関係来訪者 …… 36
5．観覧者 …… 38

I 開設準備

「文化の森」構想が発表された昭和55年1月から、平成2年11月3日の開館までが、徳島県立博物館の開設準備期間に当たる。今後の参考のために、平成2年度よりさかのぼる部分も含めて、以下の諸項目について記録しておきたい。

博物館は、文化の森総合公園を構成する5つの文化施設および公園施設の1つとして建設された。そのため、その開設準備は、他府県の場合のように“博物館建設準備室”等の組織によって一元的に行われたのではなく、文化の森全体の建設事業の一環として、いろいろな部署が担当して輻輳的に進められた。したがって、開設準備事務や予算等々の面で、博物館開設に関わる部分だけを取り出して記録することがむずかしい場合が多々あることを断っておく。

1．文化の森建設事業所管の推移

文化の森建設事業は県をあげての一大プロジェクトだったことから、当時の県立図書館および県博物館を所管していた教育委員会とも協議しながら、知事部局が所管して進められた。

昭和55年度：総務部総務課（文化振興担当）

昭和56年度：文化の森建設準備室（総務部総務課）

総務課が、他の一般文化振興、県民運動行政と併せ所管した。55年度には、置県百年記念文化施設等整備基金が設置され、文化の森懇話会が発足した。また、56年度には、用地決定、地元説明が行われ、美術館基本構想検討委員会が発足した。

昭和57～58年度：公聴県民室（企画調整部）

企画調整部内に新たに公聴県民室が設置され、そこが他の一般文化振興等と併せて所管することとなった。57年度には、博物館基本構想検討委員会が発足した。

昭和59～60年度：県民文化室（企画調整部）

公聴県民室が県民文化室に組織替えとなり、室内に、学芸係、図書館係、施設係等がおかれた。59年度には、博物館資料収集展示委員会が発足、60年度には、各文化施設の基本設計に着手した。

なお、この間の用地取得等を含む公園整備事業は、土木部都市計画課が担当して進められた。

昭和61～平成元年度：文化の森建設事務局（企画調整部）

61年4月に、文化の森建設事業を担当する文化の森建設事務局が企画調整部内に設置された（総務課、建設課で構成）。61年度には、各文化施設の実施計画が行われ、62年度には建設工事に着手した。

なお、博物館関連業務については、61・62年度は学芸係、63・元年度には博物館担当係をおいて行った。また、63年4月からは、それまで博物館資料収集展示委員会委員長だった千地万造氏を、文化の森建設顧問（新博物館の館長予定者）として迎えた。

平成2年度：文化の森5館および文化の森開設事務室（教育委員会）

平成2年4月1日、徳島県文化の森総合公園文化施設条例が施行され、新博物館をはじめ5つの館が発足した。そして、それぞれの館が中心となって、館の運営と並行して11月3日の開館にむけて準備作業を行うことになった。

また、できあがった文化の森の各館は、最終的に教育委員会が所管することに決定し、文化の森の本庁組織として、教育委員会内に新たに文化の森開設事務室（現文化の森室）が設置された。

2．博物館基本構想検討委員会

昭和57年12月、文化の森総合公園に新しく建設され

●博物館基本構想検討委員会委員
（◎委員長，○委員長代理，50音順）

氏　　名	役　員　等（当時）
＜委　員＞	
阿部　近一	県文化財保護審議会委員
岩崎　正夫	徳島大学教育学部教授
上田　健三	石井町立石井小学校長
◎岡　　芳包	県教育委員
垣塚千代子	徳島市立入田小学校長
酒井　勝司	四国女子大学教授
高橋　　啓	鳴門教育大学助教授
松村　益二	県教育委員
大和　　恒	徳島新聞社論説委員
○吉見　哲夫	阿南市文化財保護審議会委員
＜特別委員＞	
千地　万造	大阪市立自然史博物館長
坪井　清足	奈良国立文化財研究所長

る博物館の在り方について専門的立場から調査・検討するため、設置された。

第1回（昭和58年3月22日）から、第6回（59年1月13日）まで計6回の委員会を開催するとともに、5月には他府県博物館の視察も行い、基本構想をまとめ知事に答申した（内容については「徳島県立博物館基本構想報告書」参照）。

昭和57年12月25日　設置

59年1月31日「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出

3．博物館開設準備

県民文化室内に学芸係が設置され、実質的な博物館開設準備作業が始まった昭和59年度以降について、その要点をまとめておく。

(1) 開設準備費

博物館に係る開設準備費、資料購入費、初度備品費、展示工事費、および3館（博・美・21世紀館）建設工事費の年度別実績を下表に示す。このうちの博物館開設準備費には、博物館資料収集展示委員会、資料調査員、資料の調査研究、資料収集保管（資料購入費を除く）、参考図書の整備、ラプラタ大学との相互贈与、展示工事の立ち会い・検査に関する費用等が含まれる。59年度以前についても若干の経費支出があるが、博物館に係る部分のみを拾い出すことは不可能である。

(2) 博物館資料収集展示委員会

基本構想検討委員会の答申に基づき、博物館に収蔵する資料および展示の在り方について検討を行うため、昭和59年5月22日に設置された（委員定数10名）。そして、同年6月から平成2年5月まで、合計22回の会合を重ね、展示基本構想の策定、展示基本設計・実施設計の検討、資料収集および資料購入計画の検討、購入資料の選定等を行った。

委員の任期は2年だったので、この間2回の再委嘱を行った。なお、最後の任期には、文化の森建設顧問に就任したため委員長を退いた千地万造氏に代わって、森口隆次氏に委員に加わっていただいた。

●参考図書購入費（開設準備費）

年　　度	当初予算額(千円)
昭和60年度	1,000
61	2,000
62	3,000
63	4,000
平成元年度	8,000
2	8,000
合　　計	26,000 千円

●博物館開設準備および関連経費実績（単位千円）

年　　度	開設準備費	資料購入費	初度備品費	展示工事費	3館建設工事費**
昭和59年度	4,300				
60	59,516	10,150			
61	23,568	14,580			
62	33,321	45,228			237,470
63	61,622	82,860			2,601,722
平成元年度	51,527	127,159	*120,292	529,100	7,183,776
2	*11,475	190,821	*103,460	282,964	42,820
合　計	245,329	470,798	223,752	812,064	10,065,788

＊印は当初予算額、他は決算額。

＊＊設計・監理費および用地・土木・造園工事等の公園整備費は含まない。

●博物館資料収集展示委員会委員

◎委員長(昭59. 5～昭63. 4)

○委員長(昭63. 6～平2. 5)

氏　名	役　職（専門分野）
◎千地万造[1]	京都橘女子大学教授(地史・古生物)
阿部近一	徳島県文化財保護審議会会長(植物)
岩崎正夫	徳島大学総合科学部教授(岩石・鉱物)
○岡　芳包	徳島大学名誉教授（人類・医学）
小山修三	国立民族学博物館助教授（民族）
酒井勝司	四国女子大学教授（海洋動物）
三枝豊平	九州大学教養部教授（昆虫）
高橋　啓	鳴門教育大学助教授（近世史）
坪井清足	大阪文化財センター理事長(考古)
湯浅良幸	徳島史学会会長（中世史）
森口隆次[2]	大阪市立博物館館長（美術工芸）

1）任期：昭和59年5月～昭和63年4月

2）任期：昭和63年5月～平成2年5月

(3) 博物館資料調査員

開設準備の初期段階で、学芸員の不足を補い、博物館に収蔵・展示すべき資料の所在調査、資料収集および情報収集を行う目的で、博物館資料調査員が60年8月15日付けで設置された（定数20名以内、任期2年)。62年9月1日、メンバーを入れ替えて再委嘱したが、学芸員がそろってきたこと、展示工事が始まり忙しくなってきたことなどから、平成元年8月末でこの制度は廃止となった。

事務局側の連絡・指導の不十分さなどから、この制度を十分生かすことができなかった。

(4) 自主調査

展示に必要な資料や基礎データを収集する目的で、文化の森建設事務局および県博物館の学芸スタッフを中心に、外部の研究者の協力もあおいで、次の自主調査を行った。

〈昭和61年度〉

文化の森植生調査

文化の森動物相調査

剣山の節足動物相調査

〈昭和62年度〉

●博物館資料調査員（50音順）（任期：昭和60年8月15日～昭和62年8月14日）

氏　名	役　職　等	担当分野	当面の課題
青木幾男	鴨島町文化財保護審議会委員	人文全般	河川漁業
生野　勇	銃砲刀剣等審査委員	人文全般	平島公方関係
岡島隆夫	中央高等学校教諭	文化財（神社）	式内社・神社蔵の文化財
岡田一郎	徳島県文化財保護審議会委員	人文全般	海部刀
河野圭典	瀬戸小学校教頭	貝類	鳴門周辺の貝類
木内和美	海南中学校教諭	植物	県南部の植物
小林勝美	城東高等学校教諭	考古・人文全般	県下の遺跡・遺物写真、分布図
四宮照義	徳島県文化財保護審議会委員	建築	文化の森民家集落移築民家
条　半吾	阿南市文化財保護審議会委員	民俗（漁業）	県南の漁業
曽良寛武	日本野鳥の会徳島県支部長	野鳥	吉野川河口の野鳥
田中善隆	徳島県文化財保護審議会委員	人文全般	細川・三好氏関係
俵　裕	東祖谷山村文化財保護審議会長	人文全般	祖谷の民俗
寺戸恒夫	阿南工業高等専門学校教授	地理	地すべり、火山灰探査
中野昭美	四国女子大学家政学部助手	海産生物	吉野川河口の海産生物
西田素康	鳴門市教育委員会教育次長	人文全般	塩業、ワンワン瓜
福原健生	徳島市保険衛生部保健年金課長	人文全般	蜂須賀家関係
福家清司	県教育委員会文化課社会教育主事	中世史	中世の城・荘園
真鍋佳資	川田小学校長	生物全般	高越山周辺の生物
吉岡浅一	井川町教育委員会教育長	人文全般	木地師、刻みたばこ、酒造
吉田正隆	徳島昆虫同好会事務局長	昆虫	眉山・城山の昆虫

●博物館資料調査員（任期：昭和62年9月1日～平成元年8月31日）

分野	氏　名	役　職　等	当　面　の　課　題
民俗	條　半吾	阿南市文化財保護審議会委員	漁村の民俗（海士・いただきさん関係の実物資料）
	俵　裕	東祖谷山村文化財保護審議会長	祖谷の民俗（木地師の実物資料の収集）
	西田素康	鳴門市教育委員会教育次長	塩・ワンワン凧（塩の生産高の変化、塩田の拡大縮小等）
	吉岡浅一	井川町教育委員会教育長	たばこ・酒・吉野川上流の漁具の収集
歴史・考古	生野　勇	銃砲刀剣等審査委員	刀剣・刀装具・甲冑
	田中善隆	徳島県文化財保護審議会委員	細川・三好氏史料（戦前の阿波踊りの絵の所在調査）
	福家清司	県教育委員会文化課	中世史料（荘園関係史料、中島田遺跡の資料関係）
	本田　昇	鳴門市史編さん事務局	中世の城、阿波商人の回船関係の資料
	板東紀彦	徳島市立高等学校教諭	藩のしくみ（展示に使用できる検地関係等の資料）
	滝山雄一	徳島市教育委員会社会教育課	県下の遺跡・遺物（とくに庄遺跡）
地学	阿部敦次	城南高校教諭	岩石（三波川帯、みかぶ帯の岩石の収集）
	橋本寿夫	土成小学校教諭	化石（大型化石標本の所在調査）
生物	木内和美	海南中学校教諭	県南の植物（ヤッコソウ等のレプリカ作成に必要な資料）
	柴折史昭	日本野鳥の会徳島県支部理事	野鳥の生態写真（弊死鳥獣の情報等）
	中野昭美	四国女子大学家政学部助手	海岸動物（液浸標本として収集）
	真鍋佳資	(前)川田小学校長	県下の両生・爬虫類など（液浸標本として収集）
	吉田正隆	徳島昆虫同好会事務局長	県下の昆虫（甲虫目、とくに洞穴性の小動物、節足動物）
	太田茂行	東亜合成化学工業	淡水魚（スナヤツメなど、液浸標本として収集）
	木下　覚	撫養小学校教諭	植物（植物文献、県北部の植物さく葉標本収集）
	和田賢次	第一出版	動植物の群別の文献目録作成

姫田貝塚発掘調査
渋野丸山・段ノ塚穴古墳の実測調査
阿讃山脈の地質と化石調査

〈昭和63年度〉

洞草遺跡の発掘調査
剣山ブナ林の生態調査
大森荒神社貝塚の発掘調査

〈平成元年度〉

県内照葉樹林の生態調査
吉野川河口域の汽水性生物相調査

〈平成2年度〉

この年度は開館準備作業が忙しくなり、自主調査は行わなかった。

(5) 委託調査

学芸員が揃っていない段階で、展示に必要な資料や基礎データを収集するため、次のテーマにつき外部委託で調査を行った。テーマおよび委託先は次のとおり。

〈昭和60年度〉

岩石の分布と産状調査
　（徳島県地学研究会・代表中川衷三）
海産生物の調査（酒井勝司）
漁村の民俗調査（徳島民俗学会・会長湯浅良幸）
徳島城復元のための史料調査
　（徳島城研究会・代表湯浅良幸）
徳島藩政史料基礎調査
　（徳島藩政史研究会・代表高橋　啓）

〈昭和61年度〉

化石の分布と産状調査
　（徳島県地学研究会・代表中川衷三）
祖谷の民俗調査（徳島民俗学会・会長湯浅良幸）
徳島藩政のしくみに関する調査
　（徳島藩政史研究会・代表高橋　啓）
中央構造線の調査（岡田篤正）
徳島城復元のための測量調査
　（徳島考古学研究グループ・代表小林勝美）
漁業に関する民俗調査（徳島県漁業協同組合連合会）
　（水産課へ配当替え）

〈昭和62年度〉

磯地帯の生物調査（酒井勝司）
吉野川を中心とする淡水漁業調査
　（徳島淡水魚研究会・代表細川照雄）
山地の昆虫調査
　（徳島昆虫調査研究会・代表木内盛郷）

県下の哺乳類・両生類調査（阿部近一）
三木家文書の分析調査
（徳島中世史研究会・代表脇田晴子）
〈昭和63年度〉
南西諸島の昆虫相調査（櫛下町鉦敏）
県南海底の潜水調査
（ＳＤＳクラブ・代表坂田朋一郎）
四国の昆虫相調査（三草豊平）
〈平成元年度〉
牟岐大島周辺魚類相調査（藍澤正宏）

なお、委託調査（一部自主調査を含む）の成果は、「徳島県立博物館開設準備調査報告」として、文化の森建設事務局より発行された。
第１号（1987年３月）、B5版、８＋98ページ
第２号（1988年３月）、B5版、23＋87ページ
第３号（1989年３月）、B5版、32＋94ページ
第４号（1989年10月）、B5版、53ページ＋３図版

(6) ラプラタ大学との相互贈与

昭和58年６月、三木知事がアルゼンチン共和国を訪問しラプラタ大学自然科学部・博物館を見学した際、収蔵資料提供の申し出を行ったことから、徳島県とラプラタ大学との間で文化交流を進めることになった。

その後の交渉で、両者の間で博物館資料と研究機器を３回にわたって相互贈与することで合意に達し、60年８月14日、「徳島県とラプラタ大学との相互贈与に関する合意書」に知事とラプラタ大学長が署名した。この合意書にしたがって、これまで60・63年度に２回の相互贈与を行った。３回目は平成４年度に行われることになっている（合意書付表参照）。

ラプラタ大学から寄贈された南米特有の古脊椎動物

●徳島県とラプラタ大学との相互贈与に関する合議書（付表）

	ラプラタ大学 ―――→ 徳島県		徳島県 ―――→ ラプラタ大学	
	品名	個数	品名	個数
1985年度	パノクツス　全身骨格 パノクツス　甲羅 スクレロカリプツス　甲羅 メガテリウム　腰骨 チタノサウルス　化石骨 パノクツス　縮小復元模型 スクレロカリプツス　頭蓋骨及び尾骨	1体 1体 1体 1体 3点 1体 4点	走査型電子顕微鏡（日本電子　ＪＳＭ－Ｔ100、付属品16を含む） ランド・クルーザー（トヨタ・ステーションワゴン3980ＣＣ、ディーゼルエンジン、付属品を含む） レプリカ製作原材料 シリコンラバー グラスファイバーマット（100Ｖ） 〃　（200Ｖ） プラスター ウレタン	1台 1台 750kg 18ロール 5ロール 750kg 450kg
1988年度	メガテリウム（レプリカ）　全身骨格 チタノサウルス（レプリカ）　全身骨格 カンネメリア（レプリカ）頭蓋骨 エクサエロトドン　頭蓋骨 古生代ペルム紀のグロソプテリス植物群化石 パタゴニア動物生態復元図	1体 1体 1体 1体 11点 1点	教育用生物顕微鏡(ニコンＥＬ、光源装置付) 教育用生物顕微鏡(ニコンＳＥ、光源装置付) 教育用生物顕微鏡(ニコンＳＭＺ－６、光源装置付) ビデオカセット(ＶＨＳ)及びカラーテレビ レプリカ製作原材料 （シリコンラバー、グラスファイバーマット、プラスター、ウレタン）	25台 5台 10台 1台 1式
1992年度	マクラウケニア（レプリカ）　全身骨格 マクラウケニア　縮小復元模型 トキソドン（レプリカ）　全身骨格 スミロドン（レプリカ）　全身骨格 ヒッピディオン（レプリカ）　全身骨格 ステゴマストドン（レプリカ）　頭骨	1体 1体 1体 1体 1体 1体	研究用双眼実体顕微鏡(ニコンＳＭＺ－10、自動写真撮影装置及び光源装置付) マクロフォト（ニコン、付属品を含む） ブラントンコンパス 赤外線反射式測距儀 平板測量器 オフセット印刷機（ハマダ）	1台 1台 30台 1台 10組 1台
条件	ＦＯＢブエノスアイレス		ＣＩＦブエノスアイレス	

化石は、展示計画にも反映され、常設展示に組み込まれることになった。

(7) 資料購入

文化の森の博物館および美術館に収蔵する資料の取得（購入）を円滑に進めるため、昭和59年4月に「美術品等取得基金」が設置された。

博物館の開館までの購入目標枠は5億円（美術館は25億円）と設定されたため、この枠内での購入計画をたてた。まず、展示計画にしたがって、常設展示の完成に必要な資料購入額を見積り、それを最優先させることにし、残りを分野ごとの収蔵資料の購入に割り振った。

基金による資料購入の手順は取得要領で定められており、その手順にしたがって、事務局で購入資料を選定した後、博物館資料収集展示委員会に諮りながら進めた。開館まで（実際には平成2年度末まで）の分野別資料購入状況は下表のとおり。

美術品等取得基金は開館後も残されることになり、今後の博物館資料の購入も基金で対応することになっている。

(8) 展示工事

展示（常設展示）の基本設計および実施設計は、3館棟（博・美・21世紀館）建物の設計に含めて、昭和60および61年度に行った。そのため、博物館の展示だけの設計費は明らかではない。この時点での学芸職員は7名で、まだ展示資料が確定していない部分が多く、この段階での実施設計にはかなりの無理があった。

62年度は展示計画の煮つめと見直しの期間に当て、63年7月に展示工事を発注した。しかし、63年度は図面上の打ち合わせのみで、実際の施工は平成元～2年度に行われた。元年度には造作工事、電気・照明工事、模型・造形工事を、2年度にはグラフィック工事、映像・音響工事、資料の列品作業等を行った（平成2年10月竣工）。展示工事の監理業務は、文化の森建設事務局の技術および学芸職員が行うこととし、外部委託はしなかった。

なお、単品資料レプリカの製作は、それらが博物館の収蔵資料にもなることから、展示工事に含めず、資料購入として処理した。

展示基本設計：㈱佐藤武夫設計事務所
展示実施設計：㈱佐藤武夫設計事務所・㈱日建設計・㈱環境建築研究所 共同企業体
展示工事施工：㈱丹青社
　本体工事（63年7月12日契約）　799,600千円
　追加工事（2年8月20日発注）　12,464千円

(9) 学芸員の充実

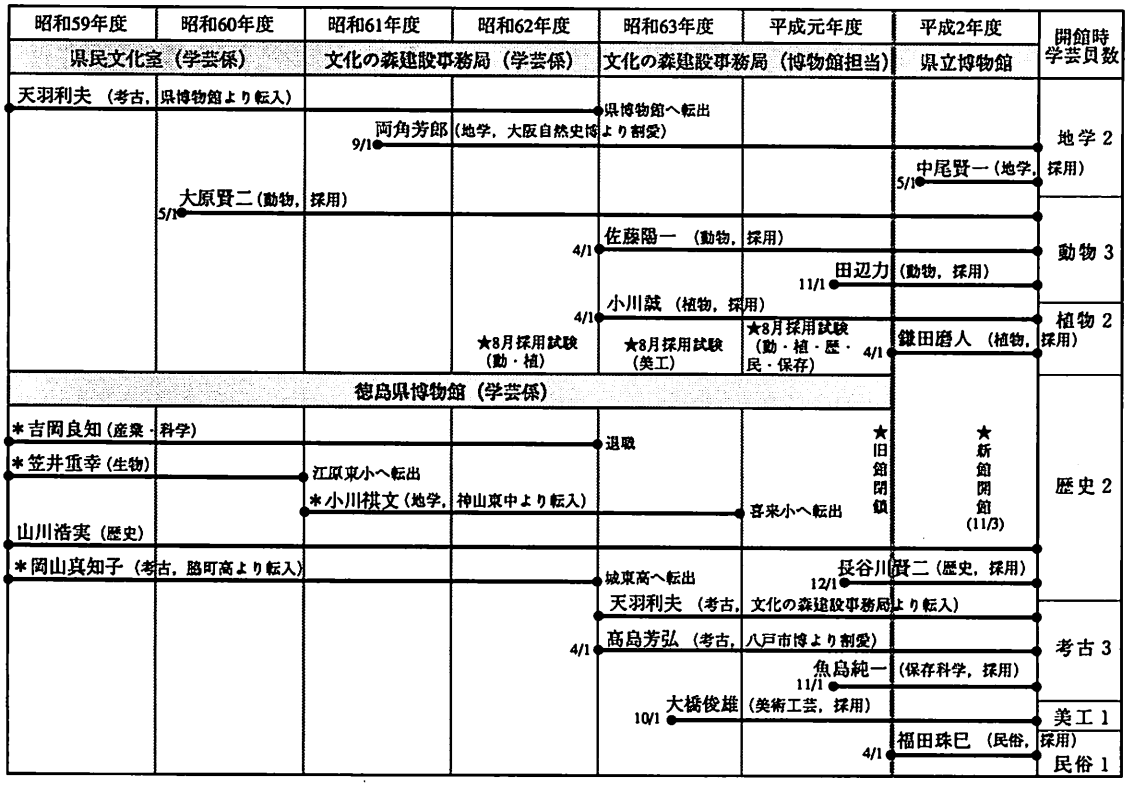
学芸員の補充は、割愛、特別選考採用および選考採用試験により行われた。

昭和63年度までは、新博物館の組織・定数等についての合意が得られていない段階で、とりあえず展示準

●博物館資料購入状況一覧表

分野	博物館資料購入計画（配分枠）			購入済資料（平成3年3月末日）	
	収蔵資料（千円）	常設展示資料（千円）	分野別配分額（千円）	点数	購入額（千円）
考古	65,000	56,900	121,900	124	94,753
歴史	25,000	27,300	52,300	278	57,392
民俗	20,000	1,900	21,900	163	24,373
美術工芸	85,000	15,600	100,600	3,254	115,625
地学	33,000	51,950	84,950	1,735	90,989
動物	35,600	47,700	83,300	22,887	62,965
植物	10,000	17,050	27,050	57	20,253
自然系文献	8,000	0	8,000	319	4,448
合計	281,600	218,400	500,000	28,817	470,798

●学芸職員補充の経緯（＊印は教員）



備作業等に欠ける分野の補充を１人ずつ認めてもらうというものだった。

平成元年度には新博物館での学芸員定数(14)がほぼ合意に達し、残る６名全員の採用試験を行った。採用試験は文化の森建設事務局において公募で行なった。応募資格は、29歳未満で、それぞれの募集分野を専攻する大学院修士課程修了者（修了見込みを含む）、または、学部卒後２年以上の研究歴を有する者とした。

採用試験の合格者（採用内定者）のうち、修士課程在学者は翌年４月１日からの採用となり、その他の者は、それぞれの状況に応じて10月、11月、12月および４月１日付けの採用となった。新博物館発足以前の採用者のうち、自然系分野の者は文化の森建設事務局において、また、人文系分野の者については県博物館において開設準備作業に当たった（経緯表参照）。

各採用試験の応募状況等は左表のとおり。

●学芸員採用試験応募状況

年.月.	分　　野	募集人員	応募者数 男	応募者数 女	応募者数 計
62.8.	動物（脊椎動物）	1	14(1)	2(1)	16(2)
	植　　物	1	7	1	8
63.8.	美術工芸	1	6(2)	1	7(2)
元.8.	動物(無脊椎動物)	1	4	0	4
	植　　物	1	5(2)	0	5(2)
	地　　学	1	8(2)	4(1)	12(3)
	歴　　史	1	5	0	5
	考古（保存科学）	1	3	0	3
	民　　俗	1	3	1	4

（　）内は県出身者（県内高校卒業者）の数

4．文化の森総合公園開園記念式典

文化の森総合公園の開園および博物館等５つの文化施設の開館を祝う文化の森総合公園開園記念式典が、平成２年11月１日(木)～11月３日(土)の３日間にわたって盛大に行われた。この記念式典は、文化の森総合公園の竣工・開園を、文化振興の担い手である県民参加のもとに、ともに祝い、その歓びを分かち合うとの趣旨で、文化の森開設事務室が中心になって準備を進め、文化の森の各館が協力した。また、式典当日の運営、会場整理および周辺の交通整理等には、教育委員会ほか県庁各課の応援を得た。

①竣工式　11月１日(木)（招待者285名）

構想から建設、完成までに関係した方々を招待し、ともにその完成を祝う行事として開催。イベントホールでの式典のあと、展示披露、祝賀会等を行った。

②展示披露会　11月２日(金)（招待者625名）

建設にあたって協力いただいたり、今後の運営に支援をいただかなければならない文化団体関係者等を招待し、施設・展示等を披露した。展示披露は10:00～15:00の間で自由に見学していただいた。

③開園式　11月３日(土)（招待者215名）

県民参加のもとに、文化の森総合公園完成の歓びを分かち合う行事として実施。10:00からのシンボル広場での式典（あいさつ、祝辞、記念植樹、テープカットなど）のあと、10:30から一般開放した。一般開放に合わせて、野外劇場では2,000人参加による第九交響曲の合唱が行われ、また午後からは、各館や公園等を利用して、軽音楽会、紙芝居・人形劇、木工教室等が開催された。

祝辞をのべるラ・プラタ大学パスカル教授

シンボル広場の開園式典招待者

Ⅱ 展覧事業

博物館での展示は、常設展と企画展からなる。

常設展は、徳島の自然、歴史、文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的なかかわりについても理解できるよう、いろいろなテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行うが、基本的な展示の構成は当分の間変わらない。

企画展は、専用の企画展示室を使って年3～4回行うことにしている。各分野・分類群の館蔵コレクションの紹介、学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や文化の紹介にとどまらず、全国的あるいは世界的な広がりの資料の展示など様々なテーマをとりまぜ、数年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組んでいる。

その他、館外の展示として、平成3年度には「文化の森紹介展」を文化の森の他の4館と共同で池田町で行った。

1．常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示およびラプラタ記念ホールの展示の3つから構成されている。

総合展示：「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の7つの大テーマにそって展示が展開されている。

1．日本列島と四国のおいたち
2．狩人たちの足跡
3．ムラからクニへ
4．古代・中世の阿波
5．藩政のもとで
6．近代の徳島
7．徳島の自然とくらし

部門展示：総合展示とはちがった角度から、分野ごとの個別的・分類的な展示を行っている。

（人文）焼物のうつりかわり／徳島藩御用絵師の絵画／阿波のいただきさん　など

（自然）いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生物の生活と自然のしくみ　など

ラプラタ記念ホールの展示：アルゼンチン共和国のラプラタ大学自然科学部・博物館から寄贈された南アメリカ特有の脊椎動物化石を展示している。

(2) 部門展示の展示替え

部門展示室(人文)では、テーマを決めて随時展示替えを行うことにしている。開館時には、「焼きもののうつりかわり」、「郷土の先人・守住貫魚」、「徳島藩御用絵師」、「阿波のいただきさん」の展示を行った。

平成3年度には、4月より「守住貫魚」と「徳島藩御用絵師」に替えて「森崎家資料」の展示を行った。森崎家は徳島藩御用絵師の家柄で、同家に伝わってきた粉本類を展示した。なお展示資料は随時入れ替えを行った。

(3) 常設展の手直し

大きな手直しは行っていないが、館内の案内や順路、観覧に関する注意事項がわかりにくいという指摘を踏まえて、これらの表示を追加した。その他、ラベルの追加・訂正などを行った。

展示物では、「徳島県の天然記念物」のコーナーに水槽を設置してシラタマモ（水生植物）の実物展示を行っていたが、濾過機の水流が強すぎたために植物体の定着が阻害されたこと、壁面の汚れの除去が困難なことなどの理由により、パネル展示に変更した。

主な手直し箇所は次の通りである。

・入口、出口、トイレの表示板の設置（5ヶ所）
・注意、案内事項の表示（12ヶ所）
・シラタマモ解説パネルの設置
・ラベルの追加および訂正（48枚）

(4) 受付案内員による解説

当館の受付案内員は現在8名で、展示室入口での受付・案内のほか、展示室での誘導・監視・解説補助等を行っている。

解説補助の仕事は、来館者の要望に応じて随時対応できるように研修を受けているが、専門的な質問に対しては担当の学芸員に連絡をとるという体制をとっている。現在のところ、展示室通しての解説は少なく、団体の方に対する一般的なガイダンスや各コーナーでの個別的な質問への対応が主体となっている。

この解説補助の業務をさらに充実させるためには、利用案内に工夫をこらすなどの対策が必要であろう。

2．企画展

平成２年度は、常設展の完成に全力を注ぎ、それを見ていただくのが開館という観点から、企画展は行わなかった。３年度には次の４回の企画展を行った。

(1) 開館記念「里帰り文化財名品展」

新博物館開設にあたり、県外の博物館・美術館などに収蔵されている本県ゆかりの代表的な文化財を里帰りさせ、広く一般県民に紹介するため、本展を開催した。

考古・歴史・美術工芸分野の文化財およそ50件130点（うち国宝１点、重要文化財２点）を展示した。

●**期間**　平成３年４月５日(金)～５月５日(日)

●**主な展示資料**

考古：畑田銅鐸／恵解山２号墳出土品／阿王塚古墳出土品／盾持男子像埴輪／旧善福寺梵鐘

歴史：蜂須賀家政判物／大坂御陣有人帳／阿波国徳島城図／阿淡産志／豊臣秀吉朱印状

美術工芸：太刀 銘正恒（国宝）／子日蒔絵棚（重要文化財）／奥の細道図巻（重要文化財）／宇治川蛍蒔絵料紙硯箱／徳島藩領国図屏風／草花密陀絵食籠／左万字紋陣羽織／萌黄糸威具足

●**期間中の入場者数**　8,687人

●**記念講演会**　５月３日(金)

講師：鈴木 規夫氏(文化庁美術工芸課文化財調査官)

課題：「蒔絵と文学意匠」

内容：古い時代の蒔絵のデザインと、日本の古典文学との関係を探った。

入場者：95人

(2) 第２回企画展「和泉層群の化石」

松山市南部から阿讃山脈、淡路島南部をとおり、和泉山脈にかけて分布する和泉層群と、そこから産出する化石をとりあげ紹介した。多くのアマチュアの方々の協力を得て、アンモナイトや二枚貝、ウニ、カニ、コダイアマモをはじめ、最近発見されたスッポンやモササウルス類など、これまでに和泉層群から見つかった化石のほぼ全容を紹介する初めての展示会とすることができた。

●**期間**　平成３年７月21日(日)～９月１日(日)

●**主な内容**

・和泉層群の化石
　和泉山脈の化石、淡路島の化石、阿讃山脈の化石、四国西部(愛媛県)の化石の４つのコーナーにわけ、地域別に分類学的に展示。

・恐竜原画でみる白亜紀後期の陸上景観
　清水勝画伯による恐竜の原画を展示。

・和泉層群の化石層序区分と対比

・コダイアマモは植物か？
　三木　茂コレクション（大阪市立自然史博物館所蔵）を中心に展示。

・展示資料点数　合計333点

●**期間中の入場者数**　8,654人（１日平均234人）

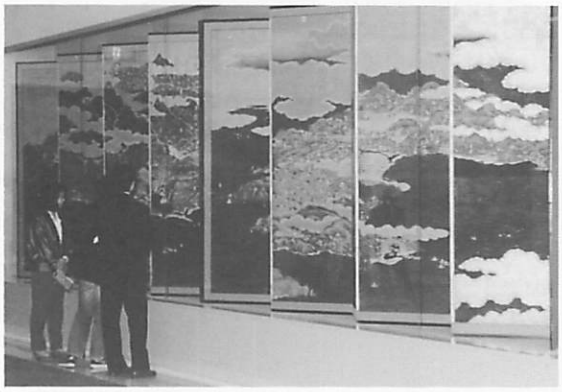
(3) 第３回企画展「人形芝居がやってきた」

人形芝居は徳島の民衆の中に深く入り込み、娯楽の花形であった。淡路などからやってきた玄人の一座が小屋掛をして演じた華やかな芝居、農閑期を利用して村人自らが練習し神社への奉納の意味を込めて演じた農村舞台での芝居、家々や街角をめぐって演じた木偶廻し、人々の生活は人形芝居と切っても切れないものだったということができる。人形頭や衣装のみならず舞台に関する資料によって、このような芝居の心浮き立つ様子を生き生きと描き出すことを目的とした企画展である。

●**期間**　平成３年10月11日(金)～11月10日(日)

●**主な内容**

①人形座のにぎわい－観劇の楽しみ－



「里帰り文化財名品展」会場

「里帰り文化財名品展」会場

「人形芝居がやってきた」会場

「人形芝居がやってきた」会場

人形芝居の華やかさを表現するために、人形座町廻り図（林鼓浪画）、興行ビラ、淡路・市村六之丞座使用の衣装や人形頭のほか、芝居見物に使用した遊山道具などを展示した。

②街角の人形遣い

本来街角の芸であった傀儡芸が舞台上の人形浄瑠璃芝居に発展した一方で、街角に残っている人形操りの芸を紹介した。正月に家いえを訪れて行われた祝芸・三番叟廻し、街角で行われた箱廻しに関する資料を展示した。

③徳島の農村舞台－参加する喜び－

県下に数多く残る農村舞台を中心として、人びとの中に深く根ざしていた人形芝居の様子について紹介した。農村舞台で使われた舞台背景襖、村所有の人形座の頭、素人太夫が技を競いあったことがうかがわれる番付表などを展示した。

●**期間中の入場者数**　2,847人

(4) 第4回企画展「阿波の刀剣」

この企画展は日本美術刀剣保存協会徳島県支部との共催によるものである。阿波国の刀工によって作られた刀剣30口、他国刀工が阿波国でつくった刀剣2口(時代別内訳は古刀8口、新刀11口、新々刀13口、現代刀1口)、阿波国の装剣金工による刀装具15件、蜂須賀家旧蔵の具足1領を展示した。

●**期間**　平成4年2月18日(火)～3月22日(日)

●**主な展示品**

刀 銘 阿州氏吉作（岩切海部）／刀 銘 阿州泰吉作／刀 銘 泰長／脇指 銘 阿波国具氏／脇指 銘 阿州海部住藤原氏吉／紅葉国縁頭 銘 野村正芳／鯉魚図縁頭 銘 堀江興成／白糸威二枚胴具足

●**期間中の入場者数**　4,049人

●**記念講演会**　平成4年3月15日（日）

講師：生野勇氏(日本美術刀剣保存協会徳島県支部長)

演題：「阿波三好一族と名物刀剣」

入場者：87人

3．文化の森紹介展

文化の森は開館後まだ日も浅く、県民の間に十分根をおろしたとはいいがたい。徳島市から遠く離れた地域の県民にとっては、実際問題として文化の森まで足を運びにくいのも確かである。そこで、こうした地域の県民に文化の森に接する機会を設けるとともに、各館の収集資料を通じて、その姿や果たすべき機能について理解と関心を深めてもらうために、文化の森紹介展が企画された。2～3年にわたり県西、県南、那賀奥等で開催の予定で、平成3年度は文化の森の5館と池田町および同町教育委員会の主催で池田町で開催された。

●**期間**　平成4年3月13日(金)～15日(日)(3日間)

●**会場**　池田町総合体育館

●**博物館の主な出品資料**

動物：哺乳類の骨格／アジア・オセアニアの貝／世界のカブトムシ

植物：いろいろなヨモギ

地学：いろいろな鉱物／マンモスの牙

考古：県下古墳の出土品

歴史：蜂須賀家の武器・武具

民俗：カツオ漁用具

美術工芸：守住貫魚の絵画

●**講座**

期間中に各館が分担して5つの講座が開かれた。博物館では、3月15日に鎌田学芸員が「祖谷の自然と民俗」と題して講演をおこなった。

●**期間中の入場者数**　1,001人

4．展示関係出版物

(1) 展示解説第1集（1990年10月31日発行）

B5版、64ページ、2,000部

一般向き。展示全体を外観できるよう、展示されている解説文や図表類を収録したものとして編集された。開館記念式典出席者への配布、交換、視察者への対応等に利用している。1991年11月20日、第2刷を発行（500部）。なお、一般来館者用には、友の会が増刷して頒布している。

(2) 企画展解説書

●**開館記念「里帰り文化財名品展」図録**（1991年3月30日発行）

B5版、80ページ（16カラー図版）
700部＋300部（友の会増刷分）

●**「和泉層群の化石」展解説書**（1991年7月21日発行）

B5版、32ページ＋8カラー図版
700部＋300部

●**「人形芝居がやってきた」展図録**（1991年10月11日発行）

B5版、40ページ(15カラーページ)
600部＋300部

●**「阿波の刀剣」展図録**（1992年2月18日発行）

B5版、68ページ、500部＋300部

(3) 徳島県立博物館総合案内(1992年3月10日発行)

B5版、88ページ（52カラーページ)、3,600部

㈶日本生命財団の全国博物館の総合案内書出版助成を受けて出版された。昭和57年度からはじまったこの事業の29番目の案内書で、平成3年夏以来当館学芸員が分担で執筆してきたものである。県下のすべての小・中・高校、図書館等へも寄贈されるほか、一部は友の会が頒布し、再版の財源として積み立てる。

(4) その他

●**展示案内リーフレット**（1990年10月31日発行）

A4版両面刷り（表4色・裏2色)、3ツ折り

簡単な常設展示案内、活動案内、利用案内をのせたリーフレット。常設展示室入口受付で観覧者全員に配布。観覧者数に応じて随時増刷。

●**英文リーフレット**（1991年3月発行）

A4版両面刷り（表4色・裏2色)、3ツ折り、500部

外国人用。簡単な常設展示案内、利用案内をのせた英文リーフレット。

Ⅲ 調査研究事業

調査研究は、博物館における諸活動の根底をなすものである。これは、質の高い調査研究に裏付けられて、最新の情報を盛り込んだ展示、質の高いコレクション、内容豊かな普及行事が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、翌々年以降に予定されている企画展のための事前調査などがある。現在、館長以外に14名の学芸スタッフ（自然７、人文７）がこの業務に携わっている。また、普及係の２名（教員）もそれぞれの専門を生かした調査研究を行っている。

１．分野別（個別）調査研究

大原賢二（動物・昆虫）

①県内のカミキリムシ科の調査

県内産のカミキリムシの収集を中心に、分布・生態調査などを行った（徳島県カミキリムシ研究会のメンバーと共同）。

②県内の蝶類生息地の現状調査

日本鱗翅学会が各県における蝶類の産状調査および生息地の現状調査を行っており、その一環として県内の蝶類数種の分布、産状、生息地の調査を行った。

③日本産ハナアブ科の分類学的研究

平成３年末、カナダ、アメリカ合衆国において、北米、旧ソビエト連邦の資料との比較調査を行った。

佐藤陽一（動物・脊椎動物）

①ニシン亜目魚類の系統分類

透明骨格標本の作成および解剖を行った。予備的なデータ解析を行い、ニシン亜目内の系統類縁関係を推定した。

②園瀬川の魚類相調査

源流域から下流域にかけて魚類の分布調査と採集を行った。

田辺　力（動物・無脊椎動物）

①県産無脊椎動物相の調査

鳴門、阿南の海岸および園瀬川河口域にて刺胞類、軟体類、甲殻類を中心に調査を行った。

②日本産ババヤスデ科の系統分類学的研究

東海、関西、四国および沖縄の各地で採集を行い、得られた材料を用いて、分類学的な検討を行った。また、屋久島産の１新種を記載、報告した。

小川　誠（植物）

①タヌキノショクダイの分布調査

宮崎県総合博物館斎藤正美学芸員、花房憲正氏、澤田耕尚氏の案内で、宮崎県都城市においてタヌキノショクダイの生育を確認した。

②ヨモギ属の種分化に関する研究

熊本、大分、新潟県においてヨモギ属を採集した。また、ワタヨモギの分布を調べ、染色体を観察した。

鎌田磨人（植物）

①平成２年度阿波学会の調査の一環として、松茂町の植物群落調査を行った（徳島大学石井恒義氏、阿南工業高校森本康滋氏らと共同）。本調査結果は「総合学術調査報告・松茂町（郷土研究発表紀要37号）」に報告した。

②平成３年度阿波学会の調査の一環として、半田町の植物群落調査を行った（池田高校西浦宏明氏、川島高校井内久利氏らと共同）。

③平成３年度に、人間の居住地域内での生物群集保全のための基礎的研究として、平地部農業地域として松茂町、山地部として東祖谷山村を選定し、植物群落の分布およびその変遷に関する調査を行った。これらの成果は、第39回日本生態学会（名古屋）で発表した。

両角芳郎（地学）

①和泉層群の化石層序に関する研究

企画展「和泉層群の化石」の準備として並行して、阿讃山脈および淡路島におけるアンモナイトの産出状況について調査した。

②日本産白亜紀アンモナイトの研究

和泉層群産ディディモセラス類の分類学的検討を行った。

中尾　賢一（地学）

①徳島県の第四紀地史についての研究

基礎調査として、現生貝類・介形虫類の分布を県内各地で調査した。平成２年度には阿波学会の調査の一環として、松茂町の沖積層についての調査を行った。

②後期新生代の貝・介形虫化石をもとにした古生態・古環境学的研究

平成２年度は宮崎平野、平成３年度は島原半島で更新世の地層と化石の調査を行った。

天羽利夫（考古）

①四国の古墳における埋葬頭位の研究

徳島・香川・愛媛県下の4～5世紀の古墳の埋葬頭位について、文献ならびに現地調査を行った。成果は企画展図録「四国の古墳」に掲載した。

髙島芳弘（考古）

①徳島県における縄文遺跡の立地と縄文人の生活諸相に関する研究

徳島市教育委員会より依頼を受け、三谷遺跡出土の動物遺存体や骨角器の分類・調査を行った。また、同遺跡出土の縄文時代晩期の土器について、北陸地方、東日本との関連を調べた。

魚島純一（考古・保存科学）

①出土金属製遺物の螢光X線分析による材質調査

県内から出土した金属製遺物のうち、おもに銅鐸の材質分析を行った。伝長者ヶ原銅鐸の分析結果を研究報告第2号に報告した。

②棟札等の赤外線TVカメラによる調査

相生町教育委員会、美郷町教育委員会、勝浦町図書館等の依頼をうけて、肉眼では判読不可能な棟札等の赤外線TVカメラによる調査を行った。

③出土動物遺存体の保存処理法に関する研究

貝塚から出土した動物遺存体を中心に、出土動物遺存体の保存処理法の研究を行った。

山川浩実（歴史）

①明治維新期における徳島藩の政治史に関する研究

当館所蔵の「蜂須賀文書」の検討から、明治維新期における徳島藩の政治史、とくに軍政改革に関する調査研究を行った。

②漢学者都郷鐸堂に関する調査

近代の書家・漢学者都郷鐸堂に関する経歴調査を行った。

長谷川賢二（歴史）

①修験道を中心とする中世の宗教組織に関する研究

修験道史研究の現状、視角と方法について批判的検討を進めた。また、中世越前における修験寺院の縁起の成立をめぐる状況の分析を行い、その結果を研究報告第1号に報告した。そのほか、中世修験道組織の研究に利用可能な近世史料についての調査を行った。

②県内の中世金石資料の調査

神山町内の一部の板碑の立地状況についての調査を行った。また、徳島市教育委員会による徳島市北矢三町の藪原家敷地内の板碑群の調査に参加した。三好町史編纂室の依頼を受け、三好町法市神社の鰐口の調査も行った。

③徳島県被差別部落史に関する調査

県下の被差別部落史についての聞き取りや各種資料の所在調査を行ったほか、被差別部落関係資料の展示方法と問題点について検討した（当館山川、多田と共同）。

④開館記念「里帰り文化財名品展」に出品された名古屋市博物館蔵「蜂須賀家政判物」に見られる村の位置を比定するため、関連史料の検討を行った。

福田珠己（民俗）

①山村における畑作文化の研究

平成3年度に、徳島県東祖谷山村について統計・文献調査を含む予備調査を行った。また、高知県における山村民俗について資料館調査を行った（当館鎌田、長谷川と一部共同）。

②景観についての文化地理学的研究

文学作品というメディアを通した景観について研究を行った。その成果を学会誌に報告した。

大橋俊雄（美術工芸）

①蒔絵師飯塚桃葉の研究

県内にある飯塚桃葉の作品および文献史料の調査を行った。

②森崎家資料に関する研究

館蔵森崎家資料について、整理と表装を行うとともに、その内容について研究を行った。

③徳島藩御用絵師の研究

県下の御用絵師の作品について調査を行った。

多田　実（普及）

①部落史に関する研究

平成6年度の企画展に関連して、県下の被差別部落関連資料の所在調査を行った（当館山川、長谷川と共同）。

②明治期における地方自治と地方選挙について

府県制・郡制における選挙制度についての法的な整備の状況と選挙の実態について研究した。

徳山　豊（普及）

①県内河川の水生昆虫相調査

平成2年度は園瀬川、桑野川の調査を行った。また、3年度には園瀬川、嵯峨川の調査を行った。

②平成3年度阿波学会の調査の一環として、半田川水系の水生昆虫相を調査した。

2．課題調査

平成2年度は開館準備に全員で取り組む必要があったため、課題調査は組まなかった。3年度には次の3つの調査を行った。

(1) 祖谷地方の自然と民俗調査

祖谷地域には、剣山、三嶺などの高山があり、ブナ林、シラビソ林などの原生林が存在している。そして、そこには、四国地方特有の、また、分布上貴重な動植物が数多く存在している。また、険しい山地地形を背景とした伝統的な文化や民俗が存在している。実際、当地域は、日本でも有数の焼畑地域であった四国山地の中央部に位置している。この調査の目的は、これらの自然史や民俗を総合的に理解することである。

平成3年度は以下の調査を行った。

①植物：東祖谷山村内の81地点で植生調査を行い、祖谷地方における植物の大まかな分布状況を把握した。また、空中写真の判読から、東祖谷山村の植生の分布様式の特徴や、年代による変化の概況を調べた。

②動物：祖谷川における魚類相の把握のため、東祖谷山村内で水系の調査を行い、また、数地点で採集を行った。

③民俗：山地民俗の特徴の一つである、雑穀栽培の分布調査を行った。また、統計資料などから、東祖谷山村の社会変化の状況を把握した。

平成4年度はこれらの調査結果をもとに、より詳細な、そして、より幅広い視点から調査を行う予定で、これらの調査をもとに、平成6年度に企画展を開催することにしている。

●調査メンバー

博物館学芸員：鎌田磨人（代表者・植物）、小川誠（植物）、大原賢二（昆虫）、佐藤陽一（魚類）、田辺　力（無脊椎動物）、福田珠己（民俗）、長谷川賢二（歴史）、大橋俊雄（美術工芸）

館外協力者：石井愃義（徳島大学総合科学部）、森本康滋（阿南工業高校）、西浦宏明（池田高校）

(2) 縄文遺跡の調査

那賀川流域の上那賀町、相生町、日和佐町において、縄文遺跡の分布調査を行った。ATやK－Ahなどの南九州起源の火山灰や、地形と遺跡の立地との関連に注目して調査を進めた。

相生町の鮎川、陰谷南、陰谷北、大久保、吉野、中雄、粱ノ上、谷内、上那賀町府殿、日和佐町赤松野田でサヌカイトの石鏃や剥片を多く採集した。陰谷北と鮎川では大分県の姫島産と思われる黒曜石も採集した。縄文土器は、上那賀町府殿と相生町鮎川でしか採集できなかった。

平成4年度は、上流の木頭村や下流の鷲敷町で分布調査を継続することにしている。

●調査日および調査地

上那賀町：平成3年11月26日、12月21・22・23日
　那賀川本流沿いと丈ケ谷川、坂州川、古屋谷川流域

相生町：平成3年11月29日、4年1月25・26日
　那賀川本流沿いと赤松川、谷内川流域

日和佐町：平成3年12月6日、4年2月1・2日
　赤松川流域

●調査メンバー

博物館学芸員：天羽利夫・高島芳弘・魚島純一（考古）、中尾賢一（地学）

館外協力者：寺戸恒夫(徳島文理大)、阿部里司（阿南市教育委員会）、柏野寿一

(3) トゲアザミの分化調査

トゲアザミは亜高山性のアザミのなかまで、最初、剣山だけにしか分布していないといわれていたが、愛媛県石鎚山周辺にも見つかっている。トゲアザミは全体に刺や毛が多く、草丈が低いという特徴でノアザミの変種にされているが，変異などの詳細な解析はされていない。このような植物にスポットを当て、その分化について調べることは、徳島の植物相形成を明らかにする上で重要である。

本調査では徳島県および愛媛県のトゲアザミの分布を調査した。トゲアザミは標高1,500m以上の日当たりの良い場所に生育していた。個体を採集し染色体数をしらべたところ、2n＝34でノアザミと同じであった。

●調査者　小川誠（当館学芸員・植物）

(4) 牟岐大島周辺の生物相調査

大島周辺は黒潮の影響が比較的強いため、海中では造礁性サンゴをはじめとする熱帯性生物が豊富に生息し、陸上でも亜熱帯性の植物群落がみられる、県下では特色ある地域である。しかし、本地域における調査はあまりなされておらず、その生物相はよくわかっていない。そこで本地域の生物相を明らかにする一環として、スキューバダイビングによる魚類相調査、陸上における昆虫相や植物相の予備的な調査を行った。

●調査メンバー（当館学芸員）
佐藤陽一（魚類）、大原賢二（昆虫）、鎌田磨人（植物）

3.「同和問題啓発企画展(仮称)」準備検討会

この企画展については平成6年度に開催する計画で、平成2年度から準備活動を開始し、大阪人権歴史資料館等の展示施設の調査や、企画展のあり方についての討議を行った。

これをうけて、平成3年度には企画展開催に向けての基本方針案をとりまとめることを目標とし、学習会や討議を重ねるとともに、部落史や被差別部落の実態に詳しい有識者（11名）から意見・助言を得ることを目的とする準備検討委員会を、平成3年10月と平成4年2月の2回開催した。この検討会には、館内から館長、副館長、各課長・係長、人文課学芸員が出席したほか、文化の森室の辻係長がオブザーバーとして出席した。検討会で得られた意見や助言は、その都度、館内での議論に反映させ、平成3年度末には、企画展の大まかな構想をまとめるに至っている。

平成4年度からは、検討会への参加を得た有識者を核とした準備委員会（仮称）を設置し、開催に向けての調査等を進めていく計画である。

4. 文部省科学研究費補助金による研究

●一般研究(C):地域特性を生かした二次植生の保全・利用のための景観生態学的研究(平成3～4年度)
研究代表者：根平邦人(広島大学総合科学部教授)
当館の研究分担者：鎌田磨人

5. 研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第1号

1991年3月31日発行、B5版、総208ページ、1,000部

長谷川賢二：中世寺院における縁起の形成とその背景－泰澄伝承と越前国越知山をめぐって－. pp. 1－18.

鎌田磨人・中越信和：韓国忠清北道の山間農村における二次林の構造とその分布特性. pp.19－36.

佐藤陽一：徳島市都市河川の魚類相. pp. 37－71.

藍澤正宏・瀬能　宏：徳島県牟岐町大島およびその周辺の浅海性魚類相. pp. 73－207.

(2) 徳島県立博物館研究報告第2号

1992年3月31日発行、B5版、総108ページ、1000部

魚島純一：エネルギー分散型蛍光X線分析による伝長者ケ原銅鐸の表面顔料の調査. pp. 1－10.

鎌田磨人・高橋史樹：焼畑耕作者による環境評価と耕作体系—宮城県椎葉村の事例を中心として. pp.11－42.

佐藤陽一・藍澤正宏：徳島県吉野川河口から採集されたタビラクチとその分布. pp. 43－50.

浅川満彦・F.テノラ・福本真一郎・鹿野健治・友成孟宏：四国地方に産する野ネズミ類の寄生蠕虫相とその特色.　pp. 51－75.

Saigusa, T. : Systematic study of the subgenus *Planempis* of the genus *Empis* from Shikoku, Japan (Diptera, Empididae). pp. 77－107.

(3) 当館刊行物以外への掲載

＊印は館外の研究者

〈動物〉

大原賢二(1991. 9) 博物館土曜講座「虫のくらし」. 徳島新聞9月20日朝刊.

佐藤陽一(1991. 11) 博物館土曜講座「徳島の魚類」. 徳島新聞11月15日朝刊.

Tanabe, T. (1990. 6) A New Milliped of the Genus *Riukiaria* from Is. Yaku-shima, Japan (Diplopoda : Polydesmida : Xystodesmidae). Zoological Science, 7 : 443－447.

田辺　力 (1990. 10) ヤスデのくらし・色・かたち. インセクタリウム, 27 : 4－7.

田辺　力 (1990－1991) 小笠原のヤスデ類. 小笠原諸島自然環境現況調査報告書, 東京都立大学 : 239－240.

田辺　力 (1992. 3) 博物館土曜講座「ヤスデの色」. 徳島新聞3月15日朝刊.

〈植物〉

小川　誠(1991. 5) 博物館土曜講座「草もちの話」. 徳島新聞5月14日朝刊.

鎌田磨人・中越信和*(1990. 12) 農村周辺の1960年代以降における二次植生の分布構造とその変遷. 日本生態学会誌, 40 : 137－150.

鎌田磨人(1991. 1) 植生図を利用した植生景観の変化の把握. 生物教育, 31 : 14－15.

鎌田磨人(1991. 2) 農村周辺の二次植生の構造とその変遷. 広島大学総合科学部紀要　IV, no. 16 : 41－44. (広島大学審査学位論文, 要旨)

Nakagoshi, N.*, K. Nehira*, T. Someya*, M. Tanaka*, M. Kamada and F. Takahasi*(1991. 2) Map of actual vegetation of Saijo, Hagashi-Hiroshima, Hiroshima Prefecture. Memoirs of the Faculity of Integrated Arts and Sciences, Hiroshima University, Ser. IV, no. 16 : 19－27

鎌田磨人(1991. 3) 博物館土曜講座「身近な自然を考

える」．徳島新聞3月15日朝刊.

鎌田磨人・森本康滋*・石井愃義*・友成孟宏*・西浦宏明*・井内久利*（1991．3）松茂町の植生．郷土研究発表会紀要第37号(阿波学会総合学術調査報告，松茂町)：23－37.

鎌田磨人(1991．5）地域博物館と環境科学．環境情報科学，20(2)：56.

鎌田磨人・中越信和*(1991．7）広島県中部の農村地域における二次植生の群落構造と動態．日本林学会誌，73：276－282.

鎌田磨人(1991.10）内なる空間としての森林－アカマツ林．特産情報，13(3)：72－73.

Kamada, M.，N. Nakagoshi* and K. Nehira* (1991.12) Pine forest ecology and landscape management：a comparative study in Japan and Korea. In；Nakagoshi, N. and Golley F. B., eds., Coniferous forest ecology from an international perspective. SPB Academic Publishing, The Hague. pp. 43－62.

〈地学〉

千地万造（1991．8）博物館土曜講座「日本海の始まり」．徳島新聞8月16日朝刊.

両角芳郎（1991.11）複合文化施設としての徳島県文化の森総合公園と博物館．月刊地球，13(11)：703－707.

橋本寿夫*・石田啓祐*・寺戸恒夫*・横山達也*・中尾賢一・東明省三*・森永宏*・久米嘉明*（1991．3）松茂町の地形と地下地質．郷土研究発表会紀要第37号（阿波学会総合学術調査報告，松茂町)：1－21.

中尾賢一（1992．1）博物館土曜講座「化石が示す生物の暮らし」．徳島新聞1月15日朝刊.

〈考古〉

天羽利夫（1991．4）博物館土曜講座「徳島は銅鐸の宝庫」．徳島新聞4月18日朝刊.

高島芳弘（1991.10）博物館土曜講座「古代の住まい」徳島新聞10月17日朝刊.

魚島純一（1991．7）博物館土曜講座「文化財のお医者さん」．徳島新聞7月12日朝刊.

〈歴史〉

山川浩実（1991．2）博物館土曜講座「インドの遺跡」．徳島新聞12月18日朝刊.

長谷川賢二（1990．8）中世後期における寺院秩序と修験道．日本史研究（336)：31－59.

長谷川賢二（1991．3）修験道史のみかた・考えかた－研究の成果と課題を中心に－．歴史科学（123)：17－27.

長谷川賢二（1991．9）郷土文化講座「中世の阿波を考える－聖地と旅」．徳島新聞9月17日朝刊.

長谷川賢二（1991.12）忘れられた「きの庄村」についての若干の史料－名古屋市博物館館蔵「蜂須賀家の政判物」の周辺－．史窓（22)：130－135.

〈民俗〉

福田珠己（1991．6）場所の経験：林芙美子『放浪記』を中心として．人文地理，43(3)：269－281

福田珠己(1991.10）人形芝居がやってきた．徳島新聞.

福田珠己(1992．2）博物館土曜講座「頭の中の地図」．徳島新聞2月11日朝刊.

〈美術工芸〉

大橋俊雄（1991．6）博物館土曜講座「仏像の見方」．徳島新聞6月14日朝刊.

(4) 学会研究会等での発表

＊印は館外の研究者

大原賢二（1991.10）シュモクバエ科、ヨロイバエ科の日本からの記録．日本昆虫学会第51回大会(静岡).

田辺　力・篠原圭三郎*（1990．8）タカクワヤスデの地理変異．日本蜘蛛学会第22回大会（箱根).

田辺　力（1991．1）ババヤスデ属における種間の系統関係と地理的分布．第59回昆虫学土曜セミナー(岡山大学農学部).

田辺　力（1991．4）ババヤスデ属の地理的変異．日本生態学会第38回大会（奈良).

田辺　力（1991．5）ババヤスデ科における交尾器の機能形態．日本動物学会中国四国支部第35回大会(鳥取).

田辺　力（1991．8）ババヤスデ属における交尾器の形態分化．日本蜘蛛学会第23回大会（鳥取).

田辺　力（1991．8）ハバヤスデ属における形質の分布と種の分布．日本蜘蛛学会第23回大会シンポジウム（鳥取).

中越信和*・鎌田磨人・根平邦人*（1990.10）アカマツ林の生態V，群集構造．第55回日本植物学会大会（静岡).

鎌田磨人・中越信和*（1991．4）広島県の山間農村，農村および島嶼における植生景観の特性．第38回日本生態学会大会（奈良).

Nakagoshi, N*. and M. Kamada (1991.7) Landscape changings of rural area in Hiroshima Prefecture after the rapid economic growth era. IALE World Congress (Ottawa, Canada).

両角芳郎（1991．6）複合文化施設としての徳島県文化の森総合公園と博物館．日本古生物学会第140回例会シンポジウム（千葉県中央博物館).

中尾賢一（1990.12）通山浜層における動物群集の分布と変遷．日本地質学会関西支部・西日本支部合同

●徳島県立博物館大型備品・研究機器類（普及用備品を除く）

室　名	備品・機器名	メーカー・品番号等
撮影室	大型照明装置一式 大型ストロボ5灯	工事 プロペット発光装置，発光部ほか
燻蒸室	常圧燻蒸装置 減圧燻蒸装置	親和テック　特注（約60m） 〃　（約2.3m）
保存処理室1	出土木製品保存処理用ＰＥＧ含浸装置 ドラフトチャンバー	ダルトン　特注（約2m） ダルトン　DS－111K
石工室	大型岩石切断機 小型精密岩石切断機 強力岩石平面研磨機 小型平面研磨機 油圧式岩石大割機 ふるい振動機	日本地科学社フロアソウ　SCH－18 日本地科学社　UC8－A 日本地科学社変速岩石研磨機 マルトーラップ　ML－110 マルトーロックトリマ　MA－5 日本地科学社シーブシェーカー
保存処理室2	出土金属製品保存処理用減圧樹脂含浸装置 出土木製品保存処理用ターシャリブタノール前処理装置 真空凍結乾燥機 熱風循環乾燥機 出土金属製品保存処理用エアブラシ ドラフトチャンバー クリーンベンチ サーベイメーター 紫外線強度計 塩素イオンメーター	三恒商事　特注（横型） ダルトン　特注（2槽） トリオサイエンス　TR－PK－3－50 エタック　HT210S S.S.WHITE　AIRBRASIVE 6500 ダルトン　DS－111E 日本エアーテック　HS－1602K アロカGMサーベイメータ　TSG－121 トプコン　UVR－1　他一式 セントラル科学　UC－41
分析室1	電気泳動関係装置一式 誘導起電式塩分計（海洋観測用） 超音波洗浄器 ファイバースコープ ファイバースコープ用光源装置他 工業用硬性鏡 撮影用ビデオ装置一式 製氷器 中型冷凍庫 全天候型測定データ記録装置セット データ回収器セット プリンタ	ADVANTEC 渡辺計器　601－MK－IV 磐城硝子　USC－12 OLYMPUS　IF8D4－20 KMF－5他 F100－065－000-55 KYOCERA　KD－8000 星崎電気　F－120B サンヨー　MDF－190 KADEC－U　他5組 HANDY－CARD 他一式 Canon Laser Shot　B406D
分析室2	大型植物乾燥機 顕微鏡用テレビ撮影装置	 HIKON DK 7001
X線撮影室	工業用X線撮影装置 ソフトX線撮影装置 赤外線テレビカメラ	リガクラジオフレックス　200EG－S2（照射ボックスは特注） ソフテックス　CMB－80（特注） ハママツホトニクス　C－2400

電子顕微鏡室	走査型電子顕微鏡 電子顕微鏡付属画像装置 エネルギー分散型螢光X線分析装置	日本電子　JSM－5300 Macintosh　IIfx　ほか一式 テクノス　TREX　630L（資料室640×640×640㎜）
資料室	反射実体鏡	測機舎　MS－27　他一式
飼育室	インキュベーター アクアリウム	日立、日本医科学機械　各2台 6台
生物標本作製室	大型冷凍庫	サンヨー　MDF－490
その他	双眼実体顕微鏡 同 同 ファイバー照明装置 生物顕微鏡 落射蛍光顕微鏡 スライド製作機 水中ビデオカメラ一式 水中ビデオハウジング 水中ビデオライト 魚群探知装置一式 暗視レンズ、増幅装置ほか一式	WILD　M－8　8台 NIKON　SMZ－U　2台 OLYMPUS　SZH－111　1台 11台 NIKON　1台 NIKON　1台 ナショナルパナコピー　KV－6000 SONY　Hi8　CCD－V800　他付属品 SONYマリンパック　MPK－VX1 HVL80DA　2台 扶桑工業　FUSO－150ほか M－911A、ほか一式

四国例会（徳島）.

中尾賢一（1991. 2）通山浜層の貝類群集の分布と変遷. 日本古生物学会1991年年会（仙台）.

福田珠己（1990. 6）場所の経験：林芙美子の作品を例に. 徳島地理学会1990年度大会（徳島）.

徳山　豊（1991. 1）美郷村川田川（ゲンジボタル生息地）の底生動物相. 日本生物教育学会全国大会（鳴門教育大学）.

徳山　豊（1991. 11）半田川水系の水生昆虫. 徳島生物学会例会（四国女子大学）.

徳山　豊（1991. 12）半田川水系の水生昆虫. 阿波学会総合学術調査発表会（半田町中央公民館）.

6．研究会・学会等の開催

・第17回四国中世史研究会　平成2年12月23～24日，応接室.

・日本博物館協会博物館指導者研究協議会（自然史部門）平成3年2月19日～20日，講座室.

・徳島地方史研究会例会　平成3年7月23日，講座室.

・日本鱗翅学会第38回大会　平成3年11月9～10日，イベントホール.

・第8回中・四国旧石器文化談話会　平成3年11月12～13日，講座室.

7．研究機器類

博物館で備えている主な研究機器類は別表のとおりである。これらは、ほとんど初度備品費（4ページの表参照）により平成元および2年度に整備したものである。今後これらの機器類の更新をどうはかっていくか、検討していく必要がある。

Ⅳ 資料収集保存事業

資料の収集と保存は、博物館の最も基本的な機能である。徳島の自然や歴史・文化に関する資料は可能なかぎり網羅的に収集することはもちろん、それぞれの分野でのテーマに応じ、比較資料として四国や西日本の資料も収集していくことにしている。とくに自然の各分野については、日本の地史や生物相の形成に深い関係のある中国大陸や東南アジアをはじめ、海外まで目をむけた収集も必要になるだろう。

資料の収集は、購入・寄贈・採集・交換など、様々な方法で行っているが、県民からの資料の寄贈が増えてきている。資料の購入には美術品等取得基金を当てている。

資料の整理・保存には多大な労力を必要とする。平成2，3年度はそれぞれ2名（人文1，自然1）の臨時補助員に手伝ってもらって作業を進めたが、受け入れ資料に比して整理・保存、データベース入力等の作業が追いつかないのが実状である。

1．購入資料

(1) 平成2年度購入資料

●動物

吉野川ほか県産淡水魚レプリカ	19点
アミアおよびホラアナゴ剝製	2点
脊索動物模型	4点
ミルクヘビ剝製	1点
県産海産魚類剝製	64点
脊椎動物剝製	5点
吉野川産魚類剝製	10点
オオウナギレプリカ	1点
シーラカンス模型	1点
哺乳類骨格標本	6点
日本産甲殻類剝製①	83点
日本産甲殻類剝製②	47点
カブトガニ剝製	49点
外国産甲殻類剝製	39点
きょく皮・海綿動物	15点
アジア・オセアニア産海産貝類②	87点
外国産陸貝	550点
日本現生海産貝類(金子コレクション)⑤	150点
中国の蝶類	816点
ニューギニア、オーストラリアの昆虫	1,483点
南アメリカの昆虫	1,932点
東南アジアの昆虫	2,501点
世界の甲虫	210点
中国のアゲハチョウ	7点
東南アジアの昆虫	2,152点
トリバネチョウ③	123点
昆虫の化石標本	13点

●地学

隕鉄	1点
マンモスの牙	1点
ペルム紀シーラカンス化石	1点
アパトサウルス（恐竜）大腿骨	1点
縞状鉄鉱	1点
自然金	1点
古生代三葉虫	2点
第一瀬戸内累層群貝化石	2点
輝安鉱	1点
辰砂	1点
外国産鉱物	6点

●考古

伝長者ケ原銅鐸	2点
銅鐸模造品	1点
東奈良遺跡出土銅鐸鋳型レプリカ	1点
押型文土器レプリカ	1点

●歴史

蜂須賀家関係資料	25点
海外異聞	1点
新編算学啓蒙	3点
阿波国勝浦郡小松島繁栄見立鏡	1点
板碑レプリカ	5点
三木家文書レプリカ	2点
蜂須賀家御座船至徳丸模型レプリカ	1点

●民俗

藍棒	1点
庚申塔レプリカ	1点
四国遍路道標レプリカ	1点
徳嶋孟蘭盆組踊図レプリカ	1点
阿波徳島富美座芝居番付	1点
結界	1点
いただき行商商品	1点

●美術工芸

鉄地丸形布目象眼松ニ馬図鐔	1点
徳島藩御用絵師粉本類	1,103点
刀　銘国親	1点

刀　銘 永次	1点
蜂須賀家参勤交代渡海図屏風レプリカ	1点

(2) 平成3年度購入資料

●動物

ニホンジカ	1点
アジア・オセアニア産海産貝類	92点
北米の蝶ほか	175点
The Macrolepidoptera of the World	20点

●地学

コマチアイト	2点
アカスタ片麻岩	1点
輝石	1点

●考古

三角縁神獣鏡レプリカ	1点

●歴史

四国偏礼絵図	1点
徳島県鉱山関係資料	35点
七十一番職人歌合	1点
蜂須賀至鎮書状	1点
細川幽斎書状	1点
阿淡諸家中格付分限帳	1点
蜂須賀文書	79点
御国産名物見立相撲	1点
踊之儀ニ付御請書奉指上名面帳	1点
徳島城下町絵図	1点
大日本古文書	170点
大日本史料	315点

●民俗

三味線	1点
猿廻し人形（3代大江巳之助作）	1点
舞楽太鼓蒔絵見台	1点
文楽着付け人形 お弓・お鶴（4代大江巳之助作）	2点

●美術工芸

渡辺広輝筆　春秋鶉之図	1点
守住貫魚関係資料	8点
守住貫魚筆　源氏物語画帳	1点
刀　銘 歳長	1点
蒔絵手拭掛	1点
渡辺尚輝筆　花鳥図	1点
蜂須賀理筆　花鳥図	1点

2．寄贈資料

●動物（脊椎動物）

＜平成2年度＞

オオコノハズク	1点	高田　大蔵氏
ニシキハゼ	1点	佐藤　吉則氏
タヌキ	1点	東條　秀徳氏
ツバメ	1点	八巻　吉子氏
カワセミ	1点	佐藤せつ子氏
クロツグミ	1点	佐藤　憲治氏
アマゴ	4点	佐藤　憲治氏
マムシ	1点	山内　孝雄氏
シマヘビ	1点	大西　君子氏
ジムグリ	1点	山内　孝雄氏
スズメ	1点	吉原美恵子氏
ギンポ	1点	原　道一氏
ムササビおよびイタチ	2点	友成　孟宏氏
紀伊水道産魚類	4点	原　道一氏
ムクドリ	1点	喜来小学校
マムシ	1点	山内　孝雄氏
マアジ、ヒイラギほか	4点	原　道一氏
コサギ	1点	曽良　寛武氏
アユカケ	1点	大谷　純治氏
シジュウカラ	2点	文化の森ビルメン
ツバメおよびヒメアマツバメ	2点	新居　正利氏
アカタチ	1点	原　道一氏
アンコウ	1点	原　道一氏
カワラヒワ	1点	原　道一氏
ハクビシンおよびスズメ	2点	東條　秀徳氏
イトヒキアジ	1点	原　道一氏
モグラおよびスズメ	2点	東條　秀徳氏
イシドジョウ	17点	洲澤　譲氏
ナメクジウオ	11点	田端　重夫氏
アブラコウモリ	1点	木内　和美氏
イトヒキアジ	1点	原　道一氏
ヒメアマツバメおよびダイサギ	2点	曽良　寛武氏
マツダイ	1点	和田島漁協
ダイサギ	1点	久木　喜仁氏
ムシクイの一種	1点	原　道一氏
コバンアジほか	多数	大谷　純治氏
チュウジシギおよびカイツブリ	2点	東條　秀徳氏
モズ	1点	文化の森ビルメン
ツツドリ	1点	大村　龍一氏
キビタキ	1点	澤　晴雄氏
クイナ	1点	近藤　治郎氏
ヤマシギ	1点	松尾　藤一氏
イタチ、メボソムシクイおよびモズ	4点	木内　和美氏
ニホンザル	1点	佐出　萬吉氏
シロハラ	1点	喜来小学校
ヒオドシジュケイおよびサンケイ	2点	遠藤　憲佑氏
オオルリ、ツグミおよびアオバズク	3点	山内美登利氏

シロハラ　1点　喜来小学校
ゴイサギ　1点　近藤　洋介氏
ジョウビタキ　1点　和田　賢次氏
ハクブンチョウおよびコウモリの一種　2点　八巻　吉子氏
カワウ　1点　曽良　寛武氏
ウシガエル　1点　竹内　延子氏
マンボウ　1点　徳島県水産課
新町川水系産魚類　多数　徳島市環境保全課
トラツグミ　1点　文化の森保安センター
ホオジロ　1点　文化の森ビルメン
キジバトおよびイタチ　2点　八巻　吉子氏
トラツグミ　1点　松尾　藤一氏
シロハラ　1点　大村　龍一氏
ジョウビタキ　1点　原　道一氏
イタチおよびツグミ　2点　曽良　寛武氏
タシギおよびモグラの一種　2点　東條　秀徳氏
シロハラ　1点　泉川　福夫氏
アユカケ　1点　高橋　勇夫氏
魚類標本　多数　平松　亘氏
シロハラ　1点　東條　秀徳氏
ツグミ　1点　森本　康滋氏

〈平成3年度〉

タウナギ　6点　津屋　清・川口邦繁氏
ナマズ　2点　津屋　清・川口邦繁氏
土佐湾産魚類
多数　高知大学理学部生物学教室岡村研究室
アオバト　1点　萬宮　翔平氏
淡水魚　多数　洲澤　譲氏
バン　1点　島上　一郎氏
ゴイサギ　1点　柴折　史昭氏
アオサギ剝製　1点　魁生　巌氏
魚類　多数　吉田　勝彦氏
カワセミ　1点　文化の森保安センター
シュレーゲルアオガエル　1点　葭本　治氏
ウシガエル　1点　山内　孝雄氏
キビレ　3点　徳島市環境保全課
コサギおよびキジバト　2点　逢坂動物病院
アカウミガメ　1点　武田　光彦氏・佐藤　吉則氏
アカエリヒレアシシギ　1点　曽良　寛武氏
バン　1点　埴渕　謙一氏
タワヤモリ　1点　長野　歩氏
シマセンニュウおよびイカルの巣　2点　吉田　和人氏
アイブリ　1点　牟岐町出羽島漁協
マムシ　1点　山内　孝雄氏
ノゴマ　1点　黄楊　弘美氏
ツバメウオ　1点　仁木　一好氏
ニホンカモシカ　1点　県教育委員会文化課
チョウゲンボウ　1点　毛利　義則氏
ニホンジカ　1点　徳島県阿南農林事務所
アカガシラサギ　1点　東條　秀徳氏
トビ　1点　前田　唯氏
ウサギ　1点　宮井小学校
ヤマシギおよびウミネコ　2点　曽良　寛武氏
Platanichthys platana　4点　Museo de La Plata
モズ　1点　木下　覚氏
キダイおよびブリ　2点　大角　義氏
ゴイサギ　1点　久次米初市氏
カワセミ　1点　片山　泰雄氏
セグロセキレイ　1点　三谷　佶氏
クマタカ　1点　高石　康夫氏
アオバト　1点　新居　正利氏
モスおよびジョウビタキ　2点　八巻　吉子氏
キジバト　1点　文化の森保安センター

●動物（無脊椎動物）

〈平成2年度〉

トビズムカデ　5点　伊藤せつ子氏
ベンケイカニの一種　8点　伊藤せつ子氏
キンセンガニ　2点　原　道一氏
マイマイの一種　1点　伊藤せつ子氏
アワビ類　5点　牟岐東漁協
アマビコヤスデ　7点　鶴崎　展巨氏
ババヤスデ類　15点　鶴崎　展巨氏

〈平成3年度〉

テナガエビ、モクズガニ　6点　高橋　勇天・前田真二氏
ヤマタニシ　1点　植田　浩三氏
トビズムカデ　2点　文化の森ビルメン
甲殻類剝製　約50点　吉田　卓史氏
線虫、鞭虫、吸虫、条虫　約170点　浅川　満彦氏

●動物（昆虫）

〈平成2年度〉

オニヤンマ　1点　板東　安彦氏
ハグロトンボ　1点　山本　恵美氏
コオニヤンマ　1点　植田　浩三氏
ヤマサナエ　1点　植田　浩三氏
コシボソヤンマ　1点　中井　康博氏
ミヤマクワガタ　1点　中井　康博氏
ミヤマカマキリ　1点　植田　浩三氏
マイマイカブリ　1点　伊藤せつ子氏

〈平成3年度〉

四国産昆虫標本　258点　滑田　保生氏
四国産昆虫標本　148点　林　寛治氏
四国産昆虫標本　343点　大塚　直樹氏
四国産昆虫標本　933点　内田　清氏
四国産昆虫標本　51点　増田　敏雄氏

四国産昆虫標本　151点　真野　俊作氏

●植物

〈平成2年度〉

植物さく葉標本　272点　入船　浩平氏
植物さく葉標本　約10万点　赤澤　時之氏
植物さく葉標本　33点　木下　覚氏

〈平成3年度〉

種子（シコクビエほか）　9点　宮内　一馬氏
フタゴヤシの葉　3点　大阪市立自然史博物館
植物さく葉標本　125点　木下　覚氏
種子（シコクビエほか）　4点　宮内　一馬氏

●地学

〈平成2年度〉

プラビトセラスほか県産化石　10点　篠原　勇氏
県産岩石および県外産岩石鉱物　43点　阿部　敦次氏
香川県産岩石ほか　6点　橋本　寿夫氏
火山灰・噴石　2点　神嵜　保成氏

〈平成3年度〉

火山放出物　1点　藤崎　幸子氏
北米の化石　2点　大知　道治氏
高知県産更新世フジツボ化石　22点　三本　健二氏
松山市大峯ケ台産イノセラムス　1点　河野　勝昭氏
鳴門市・上板町・香川県産和泉層群化石
9点　板東　一郎氏
マンガン鉱石　6点　大和　武生氏
南極産砂　1点　山口　氏

●考古

〈平成2年度〉

国分寺瓦ほか　39点　徳島県立図書館
蔵骨器　1点　天野　尊温氏
サヌカイト原石　2点　前田　仁氏

〈平成3年度〉

石斧　1点　高橋　浪子氏
クスノキ丸太　1点　阿南土木事務所
陶器壺　1点　金村　信好氏

●歴史

〈平成2年度〉

三尊種子板碑　1点　徳島県立図書館
荒妙関係資料　68点　三木喜代子氏
徳島御城下絵図　1点　井内　澄子氏
太平洋戦争関係資料　92点　内藤　秀一氏
飛鳥井雅章書状　1点　玉木　収蔵氏
家屋敷相続願状　1点　冨士谷啓治氏
徳島市大字弐軒屋町全図　1点　冨士谷啓治氏
太平洋戦争関係資料　9点　内藤　秀一氏
太平洋戦争関係資料　7点　内藤　秀一氏

＜平成3年度＞

まじない資料ほか　5点　清原ユキエ氏
荒妙　1点　三木喜代子氏
軍人水筒　1点　森　ツタエ氏
軍人水筒ほか　5点　小川　義照氏
明治－昭和期教科書　31点　松原シゲノ氏
防空用防毒面ほか　4点　堀　義治氏
都郷鐸堂関係資料　234点　半田　寛氏

●民俗

〈平成2年度〉

人形浄瑠璃舞台道具
286点　徳島県名西郡石井町本篠地区
あまダル　1点　歳森　茂氏
沖箱他　8点　橋本　博夫氏
スン　3点　阿部漁協
フゴ　2点　浜　孝氏
スン　3点　牟岐東漁協
吉野川漁具　17点　真鍋　忠雄氏
カニモジ　1点　近藤　官一氏
船釘他　10点　篠　半吾氏
あま道具　7点　浜　孝氏
松右衛門帆　1点　木村　丈治氏
農具　15点　吉田　耕治氏
人形頭台他　31点　今津　勝氏
風俗写真・風景写真　60点　徳島県立図書館
茶摺り道具　3点　中　勝美氏

〈平成3年度〉

農具　3点　宮本　隆次氏
農具　13点　加藤　公氏
消防ポンプ　1点　森　進氏
捕鯨銃　1点　牟岐西漁協
浄瑠璃本他　6点　松原シゲノ氏
脱穀機　1点　友竹　好一氏
雛人形他　7点　山口　悟朗氏
柄鏡　1点　板東　保一氏
漁具　9点　亀井　幸吉氏
犂・鞍　2点　松家　昇一氏
農具　4点　片岡　勇氏

3．寄託資料

〈平成3年度〉

●民俗

人形芝居関係資料　205点　徳島バス株式会社
人形芝居関係資料　23点　山川　良祐氏

4．資料の貸出

〈平成3年度〉

●民俗

天狗久焼印・天狗久手形　2点　株式会社宇野千代

5．館蔵資料数

●分野別収蔵資料数（平成4年3月31日現在）

分　　野	点　　数
動　物（脊椎） （無脊椎） （昆虫）	2,563 5,426 31,335
植　　物	125,061
地　　学	3,450
考　　古	786
歴　　史	2,852
民　　俗	1,371
美術工芸	4,909
合　　計	177,753

6．博物館資料収集委員会

館長の諮問に応じて博物館における購入資料について審査する機関として、博物館資料収集委員会が平成3年2月に設置された。本委員会は、開設準備段階の資料収集展示委員会の役割の一部を引き継ぐもので、「美術品等取得基金による美術品等の取得要領」の規定に従って、一定額以上の購入資料について審査する。

委員は常任委員（5名以内、任期2年）と特別委員（3名以内）から構成されており、特別委員は購入資料に応じて特に必要がある場合に、その都度委嘱される。

平成3年度は、2月4日に委員会を開催し、5件の資料の購入を諮問した。

●博物館資料収集委員会委員（常任委員）
（◎委員長，○副委員長）

氏　名	役　職（専門分野）
生野　勇	日本美術刀剣保存協会徳島県支部長（美術工芸）
石井愃義	徳島大学総合科学部助教授（生物）
石田啓祐	徳島大学教養部助教授（地学）
○高橋　啓	鳴門教育大学学校教育学部教授（歴史）
◎湯浅良幸	徳島史学会会長（民俗）

7．文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究はもちろんのこと、展示や普及教育等の博物館活動全般にわたるレベルアップをはかるための源泉のひとつということができる。当館では、そのような認識に基づき、開設準備段階から、図鑑・図説類、専門辞典類、地方史誌類、史料集、学術雑誌バックナンバー等を中心に、文献資料の購入を進めてきた。

また、最新の研究状況の把握と各種情報の蓄積を図るため、学会誌等の専門誌（別掲）を購入している。さらに、全国の博物館施設や研究機関等の刊行物（図録、調査研究報告書、広報紙、事業報告書等）も、おもに当館刊行物との交換により収集している。

●購入図書冊数

平成4年3月末　データベース登録数　4,472冊

●逐次刊行物等受け入れ冊数

平成2年度　2,585冊

平成3年度　2,699冊

●購入雑誌（平成2・3年度）

人文系：貝塚、日本史研究、季刊考古学、日本美術工芸、九州考古学、日本民俗学、芸術新潮、日本歴史、芸能史研究、美術研究、月刊文化財、美術史、月刊文化財発掘出土情報、物質文化、古代学研究、仏教芸術、古代文化、MUSEUM、古美術、民族学研究、古文化財の科学、歴史と地理、古文書研究、歴史学研究、考古学ジャーナル、歴史手帖、考古学と自然科学、歴史地理学、考古学研究、歴史評論、考古学雑誌、列島の文化史、国華、史学雑誌、地方史研究、地理、日本の美術、Annual Review of Anthropology、Folklore、Journal of American Folklore

自然史：アニマ、遺伝、インセクタリウム、科学、科学朝日、海洋と生物、貝類学雑誌、月刊むし、月刊海洋、子供の科学、昆虫と自然、生物科学、第四紀研究、地学雑誌、ちりぼたん、日経サイエンス、日本応用動物昆虫学会誌、日本生態学会誌、ニュートン、バーダー（日本の生物改題）、プランタ、American Naturalist、Applied Entomology and Zoology、Cladistics、Ecological Research、Entomology

Abstracts、Evolution、Geology、Journal of Evolutionary Biology、Journal of Paleontology、Oikos、Paleobiology、Plant Systematics and Evolution、Trends in Ecology and Evolution、Zoological Science

●当館刊行物の定期送付先数（平成4年3月末現在）

博物館ニュース	1,156ケ所
研究報告	374ケ所
展示解説	176ケ所
企画展図録　（人文）	163ケ所
企画展解説書（自然）	89ケ所

8．資料データベース

博物館に収蔵している資料を、すべてコンピュータに登録し、管理・研究用に使用する目的でデータベースを構築した。

システム関係が、すべて一つの工事として設計されたため、博物館の資料データベースは、美術館・文書館・21世紀館のデータベースとともに，図書館及び各館の図書の情報も含め、21世紀館に置かれた本体に構築されている。

(1) ハード、ソフト及びシステムの形態

○使用機種

本体：IBM社の大型汎用コンピュータ4381

端末機：NEC PC－9800RA（7台）

スタンドアローンでの利用を考慮し、NEC PC－98シリーズを選択した。

○使用ソフト

IBM社のパッケージプログラムである「DOBIS」を改造した。

○利用目的

博物館としては、建設計画当初から、資料台帳作成用にコンピュータを利用することを考えた。その後、文化の森のシステムは入館者や館外からのアクセスに対してもサービスすることになったため、レファレンス用のファイルを平行して構築する時間がなかったこともあり、資料台帳を一般へ公開する形となった。

(2) 博物館データベースの内容

①自然史と人文系の2つのファイルから構成されている。

②自然史は、動物・植物・地学の3分野、人文系は考古・歴史・民俗・美術工芸の4分野に分けて管理されている。

③各分野ごとに，担当者が担当分類群別に通し番号で資料番号を与えて登録し、資料形態や、生物の分類群ごとの検索は可能である。

④一般への公開は、管理用のデータとまったく同一ではなく、受入れ先や、購入に関する情報は表示されない。

⑤収集地その他の公開が、種の減少や絶滅につながる恐れのあるようなものは、一般への公開をしないため、非公開のファイルも設けてある。

(3) 現システムの問題点

①本体と端末機器のメーカーの違いからおこる通信上の各種の不便さ

②FEPの使いにくさ

③大型汎用機では、すべての画面を設計しないといけないために、設計時には気づかず、使い初めてはじめていろいろな問題がおこる。画面から文字まですべて使用する人間では修正できない。つまり、パソコンとの操作性の違いが大きく、各自の持つパソコンで使用しているデータベースソフトなどで可能なことができない不便さを感じることが多い。

④設計を始めたのが昭和61年であり、その後のコンピュータ分野での進歩はめざましいものがあり、最新のシステムとは言えない状況になっている。

(4) 現システムの修正

開館後、いろいろな問題がおきたために、各館から出された問題点について、各年度ごとにいくつかの点について修正している。

●資料の登録状況（平成4年3月末現在）

自然史	17,150点
人文系	2,870点

9．資料の燻蒸

収集したすべての資料および貸し出し後返却された資料、借用した資料は、原則として収蔵庫へ搬入、展示に先だって燻蒸を行う。資料の形態や量などによって、次の3種類の燻蒸を行っている。

(1) 減圧燻蒸装置による燻蒸

小型の資料は、資料の搬入などの都度、担当学芸員が必要に応じて減圧燻蒸装置を使って燻蒸を行っている。減圧燻蒸装置の有効内寸は120㎝×140㎝×130㎝（約2.3㎥）であり、ガスには臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用している。

平成２年度は13回、平成３年度は27回行った。

(2) 常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入れることができない大型の資料は、一時保管庫に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫で燻蒸を行う。常圧燻蒸庫は床面積20㎡、高さ３ｍ（約60㎥）ある。常圧燻蒸庫での燻蒸は専門業者に委託して行っている。

平成２年度は２回、平成３年度は１回行った。

(3) 収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への人の出入りなどにともなって、害虫やカビなど、資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することを考慮して、原則として３年に１回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行うことにしている。

平成２年度は開館に先だち、生物収蔵庫、歴史民俗収蔵庫（馴化室および特別収蔵庫１、２を含む）と考古収蔵庫のガスによる密閉燻蒸と、地学収蔵庫の殺虫剤散布を行った。

平成３年度は、生物収蔵庫において害虫の発生と標本の食害が確認されたため、臨時に生物収蔵庫のみの全室密閉燻蒸を行った。

V 普及教育事業

普及教育事業、とくに普及行事は、「開かれた博物館」をめざし館員が県民と直接対話できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成2年度は開館準備に追われて十分な取組みができなかったが、3年度は年間40回ほどの行事を実施した。広報活動も定着し、参加希望者が定員を上回る行事がでるなど、博物館の普及行事が県民のあいだに定着しつつある。今後は行事の回数だけでなく、調査研究の成果を生かしたり、県民のニーズにあった新しい行事を開発するなど、内容の充実を図っていく必要がある。

なお、平成3年度から博物館友の会が発足し、活動を始めている。

1．平成2年度普及行事

■開館記念講演会

11月と3月の2回、イベントホールで開催した。1回目は、開館に際して招待したラプラタ大学のパスカル博士に（同時通訳設備使用）、2回目は博物館資料展示委員会の委員だった坪井・小山両先生に講演していただいた。

①開館記念講演会Ⅰ　11月4日(日)

講師：ロゼンド・パスカル氏（ラプラタ大学自然科学部・博物館教授）

演題：南北アメリカ大陸動物群の大移動

参加者：270人

②開館記念講演会Ⅱ　3月3日(日)

講師・演題：

小山修三氏（国立民族学博物館助教授）・「狩人の国からのメッセージ」

坪井清足氏（大阪文化財センター理事長）・「東アジアの中の日本」

参加者：110人

■親子歴史教室

小学校4～6年生と保護者を対象とした行事で、講義と現地見学セットで募集した。現地見学には貸し切りバスを使用。

11月25日(日) 伝統産業めぐり 福永家住宅など　48人
1月20日(日) 大昔の徳島　博物館講座室　50人

■野外自然かんさつ

文化の森の公園、保存林およびその周辺で、午後からの半日行事として実施した。

1月27日(日) 冬の木の名前を調べる　26人
2月3日(日) 動物の冬越し　50人

■土曜講座

学芸員が自分の調査研究の成果を県民に紹介する講演会。平成3年1月から始め、原則として毎月第3土曜日の午後2～3時に当館講座室で行うことにしている。（　）内は講師の学芸員。

1月19日　アンモナイトはどのようにくらしていたか（両角）　19人
2月16日　中世に生きた人々（長谷川）　47人
3月16日　身近な自然を考える（鎌田）　26人

2．平成3年度普及行事

■体験学習

昔の人の生活に関係ある「ものづくり」の体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶ行事。3年度は土器づくりだけを実施した。申込みは全過程を通じての参加を条件とした。

7月7日(日) 土器づくり(成形) 博物館実習室　44人
8月4日(日) 土器づくり(焼成) 園瀬川河川敷　36人

■親子歴史教室

小学校4～6年生と保護者が対象で、講義と現地見学をセットで申し込ませた。徳島城めぐりをのぞく現地見学には貸し切りバスを使用。

4月14日(日) 大昔の徳島(講義) 博物館講座室　48人
5月12日(日) 遺跡めぐり　段の塚穴など　30人
7月14日(日) 江戸時代の社会(講義)　講座室　26人
8月11日(日) 徳島城めぐり　徳島城　21人
10月27日(日) 郷土の伝統産業(講義)　講座室　31人
11月17日(日) 伝統産業めぐり 福永家住宅など　32人

■野外自然かんさつ

主として文化の森周辺で半日行事として実施。鳴く虫のかんさつは土曜日の夕方に行った。

4月21日(日) 春のいきもの　文化の森周辺　27人
7月21日(日) 園瀬川の水生昆虫　31人
9月15日(日) ざくろ石さがし　眉山北麓　27人
9月28日(土) 鳴く虫のかんさつ 文化の森周辺　31人

10月20日(日) 河口のいきもの　園瀬川河口　21人
11月24日(日) ドングリ・種子の観察 文化の森　53人
2月23日(日) 木の名を当てよう 文化の森周辺　23人

■女性文化講座

博物館普及行事のほとんどが土・日曜日に集中することから、平日に行う行事として企画された。当館講座室で金曜日に実施した。

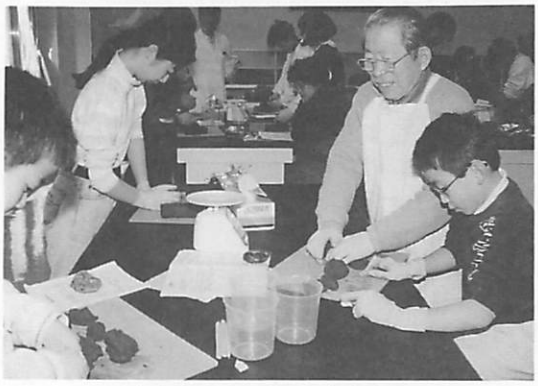
10月11日(金) 古代のアクセサリー　39人
11月8日(金) 女の力　23人
12月13日(金) 花と鳥　28人

■土曜講座

毎月第3土曜日（8月のみ第4土）の午後2～3時に当館講座室で実施。(　) 内は講師の学芸員。

4月20日　銅鐸のはなし（天羽）　46人
5月18日　くさもちのはなし（小川）　25人
6月15日　仏像のみかた（大橋）　84人
7月20日　文化財のお医者さん（魚島）　17人
8月24日　日本海のはじまり（千地）　42人

野外自然かんさつ「春のいきもの」



室内実習「レプリカづくり」

9月21日　虫のくらし（大原）　69人
10月19日　古代のすまい（高島）　19人
11月16日　徳島の魚（佐藤）　18人
12月21日　インドを旅する（山川）　37人
1月18日　化石が示す生物のくらし（中尾）　54人
2月15日　頭の中の地図（福田）　20人
3月21日　ヤスデのはなし（田辺）　19人

■標本をつくろう

当館実習室で行う、自然のいろいろなグループのやさしい標本の作り方の講習会。

5月15日(木) おとなのための昆虫標本の作り方　13人
6月9日(日) 魚の標本の作り方　14人
7月30日(火) 植物標本の作り方　35人
1月26日(日) 岩石薄片標本の作り方　15人

■室内実習

当館実習室で行う各種観察会、講習会（標本同定会は講座室も使用)。レプリカづくりは、3回とも参加できることを条件とした。

8月20日(火) 植物の名前の調べ方　20人
8月27・28日(火・水) 標本同定会　のべ224人

この行事は、博物館学芸員のほか9名の外部講師の応援を得て行った。植物に同定依頼が集中すること，学校の夏休みの宿題の後始末の手伝いといった性格が強いこと、などの問題点が指摘されている。当館ではこの行事だけを特別扱いしないで、標本の作り方、名前の調べ方と組み合わせることによって、本来の普及行事にしたいと考えているが、改善の余地がある。

10月13日(日) 小さな化石　20人
12月1日(日) 動物の骨格　15人
1月12日(日) レプリカづくり①(型どり)　24人
2月9日(日) レプリカづくり②(注型)　24人
3月8日(日) レプリカづくり③(彩色)　24人

■企画展関連講演会

3年度の2つの企画展開催期間中に、イベントホールで次の講演会を行った。

①「里帰り文化財名品展」記念講演会　5月3日(金)
講師：鈴木規夫氏(文化庁美術工芸課文化財調査官)
演題：蒔絵と文学意匠
参加者：95人

②「阿波の刀剣」展記念講演会　3月15日(日)
講師：生野　勇氏（日本美術刀剣保存協会徳島県支部長)
演題：阿波三好一族と名物刀剣
参加者：87人

3．講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等

館外からの依頼を受けて行った講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等を、月日・担当者・内容・(依頼者)の順に記録しておく（内容で依頼者がわかる場合は後者を省略)。これらも広義の普及教育活動につながるとの観点から、業務に支障のない範囲で依頼を受け入れることにしている。

〈平成２年度〉

4月22日　徳山　豊　「親子水辺教室」講師（徳島市環境保全課）

7月24,26日　徳山　豊　「親子水辺教室」講師（徳島市環境保全課）

8月3～4日　鎌田磨人　松茂町の植物調査(阿波学会)

〈平成３年度〉

4月７日　大原賢二　「親と子の昆虫教室」講師（県立神山森林公園）

6月25日　徳山　豊　市場町史編纂委員研修会「日開谷川水系の水生昆虫」講師

6月28日　徳山　豊　麻植郡小学校理科部研修会「水生昆虫の採集と観察」講師

7月３日　鎌田磨人　職員セミナー講演「二次植生景観の変遷と環境計画」(県立果樹試験場)

7月15日　徳山　豊　文理大附属幼稚園保護者研修会「川辺の生きもの」講師

7月21日　大原賢二・鎌田磨人　「親と子の昆虫教室」講師（県立神山森林公園）

7月26日　徳山　豊　「親子水辺教室」講師（徳島市環境保全課）

7月27日　小川　誠　徳島市植物学習会講師(徳島市)

7月30～31日　徳山　豊　徳島県中学校理科部会夏季研修会「水生昆虫の採集と観察」講師

7月31日　徳山　豊　おはよう徳島出演「川にすむ水生昆虫」(四国放送)

8月3～5日　鎌田磨人　半田町の植生調査(阿波学会)

8月10日　両角芳郎　厚生年金しあわせ大学講演「化石のはなし」(徳島厚生年金会館)

9月７日　長谷川賢二　郷土文化会館講座講演「聖地と旅」(徳島県郷土文化会館)

10月24日　徳山　豊　鳴門教育大学自然系理科研修会「指標動物としての水生昆虫」講師

1月11日　長谷川賢二　太平記テレビセミナー講演「躍動する民衆世界－絵巻物にみる中世の人々－」(ＮＨＫ徳島放送局)

1月16日　高島芳弘　平成３年度文化財指導者講習会講演「徳島の縄文遺跡について」(徳島県教育委員会・徳島県市町村文化財保護審議会連絡協議会)

2月6～8日　鎌田磨人　環日本海交流圏新潟国際フォーラム'92助言者（新潟県・新潟市）

4．普及教育関係出版物

(1) 博物館ニュース

Ｂ5版、８ページ（４カラーページ)、1,200部

年４回発行。館の広報誌で、内容は館蔵品紹介、企画展案内、研究紹介、普及行事の案内と記録など。県内の小・中学校、高等学校、公民館、教育委員会、図書館、県内外の博物館等に送付している。一般からの入手希望もあるが、発行部数の関係でそれには応えられていない。

これまでに、No.１（1990年10月発行)、No.２（1991年３月)、No.３（1991年７月)、No.４（1991年10月)、No.５（1992年１月）を発行している。

(2) 博物館見学ノート

Ｂ5版、40ページ、2,000部

小・中学校の児童・生徒が博物館の展示を利用するにあたり、その教育効果を高めるのに役立つように作成されたワークシート形成のテキスト。１テーマ１ページで、その中に数個の設問があり、展示を見ながらそれに回答を記入するようになっている。

遠足等で来館する児童・生徒は、展示全体をサラッと眺めて通り過ごすことが多いことから、じっくり見てもらうよう働きかけるものとして作成された。数枚の試作品を作りいくつかの小学校に利用してもらったところ、好評だったことから、32テーマに増やして印刷した。

県内の小・中学校に配布したほか、遠足等の下見に来たところにも渡して利用してもらうことにしている。

(3) その他

●博物館催し物案内ポスター

１年間の普及行事の予定をＢ4版・Ｂ2版のポスターにして、博物館ニュースなどとともに送付した。また、館内受付にも常備して自由に取ってもらっている。

●月間行事案内

普及行事の実施要領、申し込み方法等を１ケ月ごとにまとめ、関係機関に広報するとともに、来館者に自由に取ってもらっている。１ケ月に2,000枚ほど作成したが、ほとんど残部はなかった。

●博物館引率の手引き

学校での遠足などの利用に際して、博物館の概要や展示の案内見学に当たっての留意点、観覧料減免の申請手続きなどをまとめ，県内各学校に送付した。

5．博物館の広報活動

博物館ニュース、月間行事案内などを報道機関や関係機関へ送付することにより広報をした。テレビ・ラジオ・新聞などのマスコミはもちろん、タウン紙などにもできる限り幅広く資料提供するよう努めた。企画展の案内については、特にポスターやチラシを作成して幅広く広報した。現在までの広報の大半は、館の企画展や普及行事の案内であったが、今後は、学芸員の調査研究の成果など専門分野の情報を提供できる機会を増やしていきたい。

6．博物館実習生の受け入れ

平成3年8月19日～23日と8月26日～30日の2期に分けて、博物館実習生を受け入れた。実習生の総数は20人（うち男2人、女18人）で、大学別の内訳は次のとおり。

四国女子大	12人	徳島文理大	2人
東京農業大	2人	大阪青山短期大	1人
神奈川大	1人	神戸女子大	1人
京都橘女子大	1人		

実習のカリキュラムは、前期・後期で若干異なる部分もあったが、民俗資料の分類整理方法、考古資料の分類整理方法、美術工芸品の取り扱い方、資料の撮影と金石文の調査法、魚類標本の採集、地学標本・動物標本の分類整理法、博物館の保存科学、近代美術館・文書館の見学などを行った。各分野の学芸員が実習を担当した。

7．博物館友の会

徳島県立博物館友の会は、博物館活動を通じて広く自然と文化に親しむとともに、会員相互の教養の向上と親睦を図ることを目的とする会である。

当館においては開館当初から、早期に友の会が設立できるよう調査・検討を進めてきたが、平成3年4月1日付けで発足するに至った。友の会の事務局は博物館内におかれ、博物館としてもその育成に積極的に取り組んでいる。しかし、3年度は開館後間もないこともあり、実質的な活動は4年度に持ち越された。

●会員

当初は数名の会員でスタートした。3年度はほとんど活動ができないことから、表だった会員募集はしなかったが、10月1日から入会案内のチラシを博物館と図書館の受付に置くことにより、4年度会員の募集を始めた。3月末現在、個人会員（年会費2,000円）59人、家族会員（年会費3,000円）90組が申し込みしている。

●役員（平成3年度）

会　長：寺戸恒夫
副会長：千地万造（博物館長）
幹　事：和田賢治
監　査：近藤康男・柏野寿一
事務局長：林　光重（博物館副館長）

●事業

①博物館出版物の増刷・領布

博物館発行の展示解説第1集、各企画展の図録・解説書を増刷し、領布した。

②広報活動

3年度会員および4年度予約会員に対し、博物館ニュース・企画展チラシ・月間行事案内等を送付した。

Ⅵ 国際交流事業

基本構想にうたわれている「郷土に根ざし世界に広がる博物館」をめざすため、地方の中に閉じこもることなく、いろいろな機会をとらえて海外の博物館等との交流を進めていくことにしている。

今のところ、南米（アルゼンチン、ブラジル）、カナダとの資料交換等が実現しているが、今後、地理的・歴史的にも日本とのつながりが深い中国大陸、朝鮮、東南アジアとの交流の糸口をさぐる必要がある。

1．ラプラタ大学との相互贈与

〈平成2年度〉

徳島県とラプラタ大学との間で進めている文化交流（経緯については開設準備の項参照）の一環として、開館に際して、ラプラタ大学自然科学部・博物館のパスカル教授を招待した。

パスカル教授には、11月3日の文化の森開園式典で祝辞を述べていただいたほか、11月4日の博物館開館記念講演会では「南北アメリカ大陸動物群の大移動－南アメリカ特有の動物相はどのようにして形成されたか－」と題して講演をしていただいた(英語、同時通訳つき)。

〈平成3年度〉

平成4年度に予定されている第3次相互贈与をスムースに運ぶため、職員をラプラタ大学に派遣し、レプリカ製作状況の検収、組立方法の打ち合せ等を行った。

また、相互贈与に関する合意書の期限が切れる5年度以降の交流について、徳島県とラプラタ大学ではなく、お互いの博物館の間で資料や人の交流を含む交流を継続していくことで合意し、3月6日付で両館長署名の合意書を交換した。

●出張者および出張期間

千地万造：平成3年12月2日～12月13日

大原賢二：平成3年12月2日～12月17日

2．ロイアル・オンタリオ博物館との資料交換

平成3年11月7日、三木知事一行がカナダのロイアル・オンタリオ博物館（ROM）を訪問、マクニール館長と面談し、ヘラシカの骨格標本を交換で入手したい旨の申し入れを行い了承された。現在ＲＯＭ側は手持ちの交換標本がなく、新たに入手して送ってくれることになった。また、徳島県側から送る交換資料については、今後担当者間で打ち合わせていくことになっている。

3．国際交流基金招聘者の受け入れ

国際交流基金が平成2年度文化事業専門家招聘計画に基づき招聘した研究者を、当館でも受け入れた。

●受入者：イフェ大学（ナイジェリア）自然史博物館主任学芸員　Joseph Olu Triola氏（46才・男）

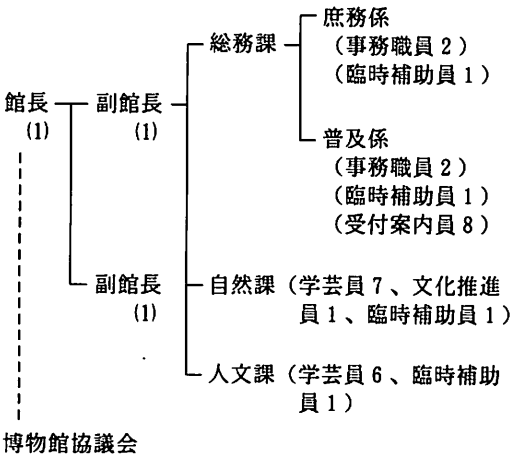
●受入期間：平成3年1月22日～27日

●研究テーマ：博物館学、博物館展示技術に関する研究

Ⅶ 管理運営

1．組織・職員

(1) 組織図（平成4年5月1日現在）



(2) 職員名簿（平成4年5月1日現在）

館　　長　亀井　節夫
副 館 長　井内　　勉
〃　　天羽　利夫

〈総務課〉

総務課長（庶務係長兼務）　天野　尊温
主　　査　中川　和子
普及係長　多田　　実
主　　事　徳山　　豊
臨時補助員　仲田　悦子
〃　　北野　由美
受付案内員　渡辺　早苗
〃　　湯浅　紀子
〃　　柳川　誠子
〃　　原田貴美子
〃　　桐川いずみ
〃　　栗城　和代
〃　　吉岡希実子
受付案内員　柳川　佳代

〈自然課〉

自然課長　両角　芳郎（地学）
主任学芸員　大原　賢二（動物）
学芸員　佐藤　陽一（〃）
〃　　田辺　　力（〃）
〃　　小川　　誠（植物）
〃　　鎌田　磨人（〃）
〃　　中尾　賢一（地学）
文化推進員　牧野　和美
臨時補助員　佐古　史香

〈人文課〉

人文課長　山川　浩実（歴史）
主任学芸員　高島　芳弘（考古）
学芸員　大橋　俊雄（美術工芸）
〃　　長谷川賢二（歴史）
〃　　魚島　純一（考古）
〃　　福田　珠巳（民俗）
臨時補助員　佐藤　智美

(3) 非常勤・臨時職員（平成2・3年度）

●館長（非常勤特別職）
千地　万造（平2.4.1～平4.3.31）

●主任専門員（非常勤特別職）
中西　忠司（平2.4.1～平4.3.31）

●臨時補助員

〈平成2年度〉

松田　昌子（平2.4.1～平3.3.31）
鈴木加代子（平2.5.1～平3.3.31）
山本　恵美（平2.5.10～平3.3.31）
森川　和子（平2.5.11～平3.3.31）

〈平成3年度〉

田村　順子（平3.4.1～平4.3.31）
長尾　由美（　　〃　　）
武市　説子（平3.4.9～平4.3.31）
髙開　美穂（平3.4.16～平4.1.31）
富吉　智子（平4.2.1～平4.3.31）

●受付案内員（非常勤特別職）
笠井　恭子（平2.10.1～平2.10.31）
萩田さおり（　　〃　　）
河村　正子（平2.10.1～平3.3.31）
若岡　佐知（平2.10.1～平4.3.31）
福本　恭子（　　〃　　）
渡辺　早苗（平2.10.1～　　）
湯浅　紀子（平2.10.1～　　）
柳川　誠子（平2.11.1～　　）
奥野真理子（平2.12.4～平3.3.31）

吉井　光子（平2.12.4～平3.12.31）
宇山　久美（平3.4.1～平4.3.31）
石塚　紀子（平3.4.9～平3.11.30）
原田貴美子（平4.1.7～　　）
桐川いずみ（平4.1.7～　　）

(4) 人事異動（カッコ内は前職）

〈平成2年4月1日〉
千地万造（京都橘女子大学教授・県文化の森建設顧問）館長に就任
転入：林　光重・副館長（畜産課課長補佐）
〃　天羽利夫・副館長（県博物館次長）
〃　天野尊温・総務課長兼庶務係長(文化課係長)
〃　中川和子・事務主任（県博物館事務主任）
〃　多田　実・普及係長（富岡西高教諭）
〃　徳山　豊・主事（市場中教諭）
〃　両角芳郎・自然課長（文化の森建設事務局主査兼係長）
〃　大原賢二・学芸員(文化の森建設事務局主事)
〃　佐藤陽一・学芸員(　〃　)
〃　小川　誠・学芸員(　〃　)
〃　田辺　力・学芸員(　〃　)
〃　山川浩実・人文課長（県博物館主査兼学芸係長）
〃　高島芳弘・学芸員（県博物館学芸員）
〃　大橋俊雄・学芸員(文化の森建設事務局主事)
〃　魚島純一・学芸員(　〃　)
〃　長谷川賢二・学芸員(　〃　)
新採：鎌田磨人・学芸員
〃：福田珠巳・学芸員

〈平成2年5月1日〉
新採：中尾賢一・学芸員

〈平成4年3月31日〉
千地万造館長、退職

〈平成4年4月1日〉
亀井節夫（京都大学名誉教授）館長に就任
転出：林　光重(副館長)、工業技術センター次長へ
転入：井内　勉・副館長（企業局工務課課長補佐）
昇格：中川和子・主査（事務主任）
〃　大原賢二・主任学芸員（学芸員）
〃　高島芳弘・主任学芸員（学芸員）

2．予算

平成2年度は、4月1日に館組織が発足したとはいうものの、11月3日の開館までは開館準備作業に比重が置かれた。そのため、予算上も過渡期的で、博物館に関連する予算は次の5つの事項にわたっていた。

①文化の森建設事業費……博物館展示工事費
②文化の森初度備品費……博物館開館時に必要な備品の整備費
③文化の森開設準備費……資料収集展示委員会、展示工事検査、要覧作成、参考図書整備等の経費
④博物館費……通常の館の管理運営に必要な経常的経費
⑤美術品等取得基金……博物館資料の購入

なお、3年度からの博物館関連予算は博物館費及び美術品等取得基金より成る。2年度の①～③については、4ページ開設準備費の項参照のこと。

●平成2年度博物館費（2月現計予算額）　（単位；千円）

科　目	予算額	管理運営	展覧事業	調査研究	資料収集保存	普及教育	国際交流
報　酬	14,937	14,937					
賃　金	6,313	6,161	152				
報　償	1,120		60	340	260	210	250
旅　費	7,154	2,546	961	2,040	655	102	850
需　用	22,377	3,966	6,227	4,550	6,274	1,210	150
役　務	26,243	2,390	21,190	378	2,200	35	50
委　託	4,665		665		4,000		
借　損	289	189				100	
備　品	193,831	1,630		180	＊192,021		
負　担	121	60		61			
計	277,050	31,879	29,255	7,549	205,410	1,657	1,300

註1）開設準備費を除く。
註2）＊のうちには、資料購入費190,821千円を含む。

●平成３年度博物館費（2月現計予算額）

（単位；千円）

科　目	予算額	管理運営	展覧事業	調査研究	資料収集保存	普及教育	国際交流
報　酬	23,634	23,634					
賃　金	7,186	7,186					
報　償	1,709		702	270	100	130	507
旅　費	12,950	2,427	3,546	3,501	887	134	2,455
需　用	32,713	3,966	14,885	5,349	6,307	1,825	381
役　務	15,033	2,446	8,779	520	2,200	638	450
委　託	5,907		4,526		1,381		
借　損	491	291				200	
備　品	40,886	1,376	1,664	270	＊ 37,576		
負　担	119	60		59			
計	140,628	41,386	34,102	9,969	48,451	2,927	3,793

註）＊のうちには、資料購入費31,746千円を含む。

3．博物館協議会

徳島県立博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置された。しかし、平成２年度は開館準備等に追われ、委員の委嘱に至らず、平成３年６月１日付けで10名の委員（委員定数10名以内）が任命された。

３年度は協議会を１回開催した。

●徳島県立博物館協議会委員名簿

（平成４年３月31日現在）

区　分	氏　名	役　職　等
学校教育	河野　圭典	県小学校理科教育研究会会長 明神小学校校長
	赤穂　正樹	県中学校社会科教育研究会会長 鳴門中学校校長
	林　啓介	県高等学校社会科学会副会長 県立阿波高等学校副校長
社会教育	小原　和夫（会長）	徳島県郷土文化会館理事長
	冨士貴志夫（副会長）	徳島県生涯学習推進会議委員 鳴門教育大学教授
	加茂　重良	徳島市立動物園長
学識経験者	岡田　一郎	徳島県文化財保護審議会委員 海南町教育委員会教育長
	寺戸　恒夫	徳島文理大学教授
	野田　良子	徳島県文化財保護審議会委員 四国女子大学教授
	石井　愃義	徳島大学総合科学部助教授

●第１回協議会

日時：平成３年７月23日(火)　10：30～12：00

会場：博物館講座室

議事：

・役員の選出　会長に小原和夫委員、副会長に冨士貴志夫委員を選出。

・開館までの経過及び平成２年度事業報告

・平成３年度当初予算及び事業計画

4．視察等博物館関係来訪者

〈平成２年度〉

4．6　国立歴史民俗博物館考古部長

4.19　松戸市役所文化建設担当室５名

5.14　徳島市教育委員会博物館建設準備室６名

5.14　自民党国土開発四国地方委員会６名

5.19　文部省地方課長小野氏

5.28　香川県副知事

6．7　高知県知事ほか四国知事会

6.13　NHK高橋解説委員

6.15　四国民放社長会石川良彦氏ほか10名

7．9　滋賀県教育委員会文化振興課顧問ほか５名

7.17　徳島県市町村収入役会

7.24　四国４県議会事務局調査課長会

7.30　奈良市教育委員会文化財課長，京都大学教授

上田正昭氏
8.28 地域振興整備公団理事緒方勇一郎氏（前副知事）
9.12 (財)日本博物館協会専務理事毛利正夫氏
10.17 徳島新聞社論説委員6名
10.23 宮崎県議会文教常任委員会13名
10.25 大蔵省資金管理課課長補佐，四国財務局融資課長
11.18 岸和田市教育委員会委員長ほか4名
11.20 文部省教科調査官
11.25 倉敷市立自然史博物館協議会12名
11.27 文部省職業教育課課長補佐
12. 6 元興寺文化財研究所主任研究員吉井敏幸氏
12. 6 神奈川県立博物館長岩野好秀氏
12. 7 中国実務者招聘団25名
12.23 四国中世史研究会福家清司氏ほか6名
1.16 岐阜県教育長
1.18 徳島市博物館建設準備室4名
1.22 豊中市教育委員会社会教育部長ほか1名
1.25 文部省初等中等教育局岸継明氏
1.29 三重県立博物館長富田靖男氏ほか1名
1.29 日本生命財団五道闊氏、千里文化財団藤田良一氏
2. 1 愛媛県城川町長
2. 1 宇都宮市長
2.13 香川県教育次長
2.15 愛知県埋蔵文化財センター理事長松川誠次氏
2.18 文化庁文化財保護部伝統文化課鷲見高志氏，同美術工芸課多昭彦氏
2.19 石川県環境部自然保護課長澤口良雄氏
2.19 和歌山県立博物館次長太田雄造氏
2.20 衆議院予算委員会
2.24 島根県教育委員会文化課佐伯徳哉氏
2.26 熊本県教育庁文化課田島勝太郎氏
3. 3 斎宮歴史博物館学芸課長兼調査部長ほか1名
3. 3 香川県大川町教育委員会教育長岡村修氏ほか文化財保護審議会委員7名
3. 7 八雲立つ風土記の丘資料館学芸主任平野芳英氏
3. 7 広島県立歴史博物館学芸員3名
3. 7 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所副所長ほか4名
3.10 吹田市教育委員会社会教育課藤原学氏
3.13 大蔵省地方資金課前田調査官
3.13 北九州市自然史博物館業務課長寺本進氏，主幹藤井厚志氏
3.13 神奈川県教育課博物館建設準備担当副主幹高畑充治氏ほか2名
3.14 栃木県立博物館人文課学芸員3名
3.15 山形県立博物館館長矢口氏
3.17 洲本市立淡路文化史料館運営協議会専門委員4名
3.19 栃木県立博物館自然課学芸員2名
3.20 国立歴史民俗博物館白勢裕次郎氏
3.22 北海道開拓記念博物館紺谷氏
3.23 高知県立歴史民俗資料館学芸主事2名

〈平成3年度〉

5. 1 栃木県立博物館自然課長樋口弘道氏
5.22 大蔵省地方資金課長
6. 1 文部省助成局地方課長小野元之氏
6. 1 愛媛県立美術館谷本副参事
6. 6 島根県教育長
6.27 新居浜市立郷土美術館協議会
7. 9 三重県教育委員会事務局次長ほか4名
7.19 徳島県板野町文化財審議会
7.28 奈良国立文化財研究所肥塚隆保氏
8. 4 元高知県副知事川崎昭典氏ほか3名
8. 5 松戸市教育委員会美術館準備室博物館担当学芸員山田尚彦氏
8.21 北九州市生涯学習施設整備構想検討委員会
8.21 香川県文化行政振興課懇談会
9.25 広島県立歴史博物館学芸員伊藤実氏
10.19 伊予市文化財専門委員
10.22 八戸市立図書館長玉川恵三氏
10.22 国立国会図書館長，文部省生涯学習局長
10.23 石川県議会文教公安常任委員会
10.24 岡崎市教育委員会社会教育課長ほか4名
10.28 宇和町長，歴史文化博物館建設推進専門委員
10.30 国立歴史民俗博物館民俗研究部長岩井宏実氏
10.30 東京都高尾自然科学博物館学芸員森広信子氏
11. 6 京都府城陽市収入役，教育部長
11. 8 東海大学50年史編纂室日露野好章氏
11. 9 九州大学名誉教授白水隆氏ほか4名
11.13 静岡県議会企画・環境・文化常任委員会
11.13 埼玉県議会都市整備・新庁舎建設対策特別委員会
11.15 国立民族学博物館副館長佐々木高明氏
11.15 高知県芸西村教育委員会
11.19 名古屋海洋博物館管理課長成田鏘司氏ほか1名
11.21 岡山県古代吉備文化財センター係長ほか2名
11.21 和歌山県立博物館学芸員高橋修氏
11.22 香川県自然科学館長ほか12名

〈40ページへつづく〉

5．観覧者

常設展月別観覧者数及び企画展観覧者数は、別表のとおり。平成２年度（11月～３月）観覧者合計98,168人、３年度160,836人で、開館前の予想（年間８万人）を大きくオーバーした。

●平成２年度常設展観覧者数

月	開館日数	有料観覧者									有料観覧者計
		個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）			
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	
11	23	18,107	1,240	5,616	3,013		295	5,005		2	33,278
12	23	8,756	856	2,767	1,235	49	216	1,850			15,729
1	22	8,174	647	2,616	232		4	948			12,621
2	24	6,315	475	1,554	876		82	917			10,219
3	26	8,160	1,000	3,610	1,330	27	1,006	1,639	57	46	16,875
計	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	10,359	57	48	88,722

●平成３年度常設展観覧者数

月	開館日数	有料観覧者									有料観覧者計
		個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）			
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	
4	25	6,966	631	3,366	421	200	79	1,248	18	17	12,946
5	27	9,608	687	3,076	1,054	31	133	1,704		1	16,294
6	26	4,374	208	1,084	781	6	106	1,197			7,756
7	26	3,741	256	1,330	776		327	816		1	7,247
8	27	9,311	1,031	5,213	511		277	640			16,983
9	25	3,840	293	1,097	291			519			6,040
10	26	3,463	167	844	1,466		111	892			6,943
11	25	3,977	193	1,064	767		34	1,258	1		7,294
12	23	1,745	243	516	97	34	2	153			2,790
1	22	2,654	326	753	140			235			4,108
2	24	2,527	257	611	145			299		1	3,840
計	276	52,206	4,292	18,954	6,449	271	1,069	8,961	19	20	92,241

（単位：人）

無料観覧者										観覧者総数
学校教育								その他	無料観覧者計	
小学校		中学校		高校		計				
校	人数	校	人数	校	人数	校	人数			
31	3,345	4	582	4	1,725	39	5,652	369	6,021	39,299
4	288	1	28	1	20	6	336	246	582	16,311
				3	59	3	59	109	168	12,789
5	251			3	74	8	325	183	508	10,727
15	993	1	30	1	94	17	1,117	159	1,276	18,151
55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489	1,066	8,555	97,277

（単位：人）

無料観覧者										観覧者総数
学校教育								その他	無料観覧者計	
小学校		中学校		高校		計				
校	人数	校	人数	校	人数	校	人数			
14	1,727	2	516	5	1,131	21	3,374	86	3,460	16,406
60	7,984	15	2,532	4	229	79	10,745	441	11,186	27,480
6	688	2	104	2	80	10	872	145	1,017	8,773
3	21	1	4			4	25	167	192	7,439
				3	135	3	135	110	245	17,228
1	76			1	33	2	109	96	205	6,245
71	9,267	20	3,626	2	130	93	13,023	373	13,396	20,339
37	5,869	4	178	3	697	44	6,744	283	7,027	14,321
1	65					1	65	198	263	3,053
								90	90	4,198
8	318	0	0	1	8	9	326	147	473	4,313
201	26,015	44	6,960	21	2,443	266	35,418	2,136	37,554	129,795

●平成3年度企画展観覧者数

（単位：人）

企画展名	開催期間	開館日数	有料観覧者										無料観覧者	観覧者総数
			個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）			計		
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生			
開館記念「里帰り文化財名品展」	平3.4.5～平3.5.5	27	5,474	286	787	58	30	0	1,519	20	0	8,174	513	8,687
第2回企画展「和泉層群の化石」	平3.7.21～平3.9.1	37	4,755	547	2,594	62	0	161	274	0	2	8,395	259	8,654
第3回企画展「人形芝居がやってきた」	平3.10.11～平3.11.10	27	1,381	35	138	246	0	500	330	0	0	2,630	217	2,847
第4回企画展「阿波の刀剣」	平4.2.18～平4.3.22	29	2,723	210	277	38	0	0	502	0	0	3,750	299	4,049
計		120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,625	20	2	22,949	1,288	24,237

〈37ページよりつづく〉

11.28　千葉県立房総のむら副館長ほか3名
11.29　沖縄県立博物館新館建設委員会
12.12　大阪府立弥生文化博物館学芸員
12.14　東京国立博物館長
12.18　皇太子殿下行啓
1.8　沖縄県政策調整官観光文化局長
1.21　兵庫県洲本市教育委員会12名
1.24　岡崎市議会教育福祉常任委員会
1.26　高知県立歴史民俗資料館学芸主事梶原瑞司氏
1.28　中国・西安市人民政府代表団6名
1.29　岩手県議会人材育成推進対策特別委員会
2.5　栃木県立博物館学芸員小倉洋志氏ほか5人
2.5　愛媛県生涯学習センター主任川崎氏ほか2名
2.13　国文学研究資料館史料館助教授安藤正人氏
2.13　岐阜県博物館学芸部長清水氏
2.18　中日友好協会理事友好交流部長王雲涛ほか2名
2.19　長野県教育委員会文化課課付町田敏章氏ほか1名
2.19　自民党政務調査会国土開発四国地方委員会初村委員長
2.20　田辺市都市計画審議会
2.26　和歌山県教育長西川氏
2.27　寒川町文化財審議会委員
2.29　群馬県立歴史博物館学芸第一課長田中氏
3.4　山口県立山口博物館学芸課長小山氏
3.4　高知県立歴史民俗資料館運営審議会
3.6　東京都自然史博物館準備室学芸員原真麻子氏
3.9　(財)大阪文化財センター石神幸子氏
3.17　群馬県文化振興室飯島氏ほか2名
3.18　文部省教職員課課長補佐田丸氏ほか1名

徳島県立博物館年報 第1号(平成2・3年度)

平成4年(1992)6月20日　発行
編集・発行：徳島県立博物館
〒770　徳島市八万町向寺山
(文化の森総合公園内)
TEL (0886) 68－3636　FAX (0886) 68－7197
印　　刷：㈱教育出版センター